

育教の兒幼

號三第 號月三 卷四十三第



內校學範師等高子女京東

會協園稚幼本日

東京高等師範學校教授

文學博士 小野島右左雄先生著

好評 三版

最近心理學概説

文檢必 讀の要 書最近 の心理 學漸く 完成す

上巻

定價三圓五十錢 送料二十二錢

下巻

定價三圓五十錢 送料二十二錢

合輯

定價五圓八十錢 送料三十三錢

本書の最も特長とすべき點は全卷一貫せる思想を以て凡ゆる精神事實を巧に解明し全卷暗示に満ち本書上下二巻を味讀すれば一般心理學・兒童心理學・青少年心理學・發達心理學・個性心理學・社會心理學・變態心理學・動物心理學・教育心理學等の凡ゆる心理學の一般的方法知識を獲得すべきは勿論、學者は本書に依つて斯學の一體系を知るに止まらず科學の論理的・生活論理學の成立と新しき哲學の暗示を受け、教師は生徒兒童の心的體制的理論と教育の新方法を教へられ、一般人は人間の具象的心的體制的の最も即事的なる論理と應用を示され斯くてこそ心理學は科學の先陣に立ち此思想國難の打開に資す。振つて萬人の乞必讀。

性格心理學と兒童研究

菊判全一冊洋綴 定價二圓七十錢 送料廿二錢

心理學要論

菊判全一冊洋綴 定價二圓 送料廿二錢

兒童研究、性格心理學に主點を置き各種の新研究を發表し、猶ほ最近心理學の動向を検討して最も新なる斯學上の諸問題を提出し之等に對し教授獨自の立場を展開してその進展に寄與すれば一般心理學徒及び教育家篤學者の御必讀を乞ふ。

現代の科學的心理學の一般理論を一つの簡單なる體系の中に織り成して叙説せる心理學の要論である。舊來の陳腐なる心理學の形骸を脱して現代將來の人間の動向を正しく理論づけるべく、終始一貫せる主張の下に正確なる科學の所産を披瀝し猶ほ常に豊富なる暗示を與へてある。

文學博士 小野島右左雄著

發行所 東京市牛込區 文館書店 振替電話 東京三三三番 七五番

生徒募集

一本科七十名
一、研究科若干名
右募集ス

出願期限 三月一日ヨリ三月廿五日迄

規則書入用ノ方ハ二錢切手封入申込マルベシ

東京市品川区大井原町五二〇八

東京昭和保姆養成所

所長 土川五郎

顧問兼講師 倉橋惣三

保姆生徒募集

一、募集人員 六十名

一、出願期限 三月一日ヨリ 同二十五日マデ

規則書入用ノ方ハ二錢切手封入御請求アレ

東京市淀橋區下落合三丁目一三八八 (電話 落合五五九 長崎)

目白幼稚園保姆養成所

所長 和田 實

徳島女子 師範主事 永澤義憲先生著 四六判洋布装 函入三二〇頁 定價 一圓八十錢 送料 十四錢

幼稚園教育の實際

各般の事項に亘る詳細にして體系ある實際指導書初めて成る！
新しい幼稚園、正しい幼稚園を本書に見よ！ 保母志望者亦必讀

※ 幼稚園には幼稚園の意義があり使命がある。それは單に幼児の保護に任ずる所でもなく、又況んや小學校の豫備に終始するものではない。本書は此幼稚園本來の使命に鑑み、永き經驗を實際に體系つけた稀に見る傑出した研究である。

幼稚園ばなし

長尾豊先生著 價一・八〇 送料一・四

實物提示 幼児に聽かせる話

久連松弘先生著 價二・三〇 送料一・四

幼稚園の舞踊

石井小浪女士著 價〇・八〇 送料〇・八

動作のやさしい唱歌

厚生閣編輯部編 價各一・〇〇 送各〇・八

【内容抄】 緒論——一幼稚園の本質と使命・二幼稚園發達の史的概観（史的概観について・世界に於ける幼児教育の發達・日本に於ける幼児教育の發達）・三幼な兒の心理（心理的區分・幼稚期の心理・幼兒の心理） 本論——一幼稚園保育の方法・二各項目の取扱・遊戲・唱歌・觀察・談話・手技・三養護（保育目的と養護・養護施設・養護要目・養護上の注意）・四躰方（幼稚園に於ける躰方・強く正しくすなはな兒・躰け方への注意）及び注意・躰け方細案）・五年中行事・六設備（良き保育としての物的條件・法令上に示されたる設備・最低限度に於ける設備）・七個性調査及び家庭との聯絡（個性調査と家庭調査・家庭との聯絡） 餘論——一教科に於ける小學校との聯絡・幼兒生活の道德的特殊性と道德教育・文字と書方教育・幼兒の數學教育・幼兒と國史・幼兒の理科教育・入學前に於ける體育・入學前の唱歌・五六歳兒の手工に就いて・二保母のあゆむべき道（根本的存在としての保母・人としての保母・母としての保母・主觀的修養・客觀的修養）——以上小項目全部省略

厚生閣

東京電話 九段三三(33) 六下町 番八〇〇六

生徒募集

一本科七十名
一、研究科若干名
右募集ス

出願期限 三月一日ヨリ三月廿五日迄

規則書入用ノ方ハ二錢切手封入申込マルベシ

東京市品川区大井原町五二〇八

東京昭和保姆養成所

所長 土川五郎

顧問兼講師 倉橋惣三

保姆生徒募集

一、募集人員 六十名

一、出願期限 三月一日ヨリ 同二十五日マデ

規則書入用ノ方ハ二錢切手封入御請求アレ

東京市淀橋區下落合三丁目一三八八 (電話 落合五五九 長崎)

目白幼稚園保姆養成所

所長 和田 實

徳島女子 師範主事 永澤義憲先生著 四六判洋布装 函入三二〇頁 定價 一圓八十錢 送料 十四錢

幼稚園教育の實際

各般の事項に亘る詳細にして體系ある實際指導書初めて成る！
新しい幼稚園、正しい幼稚園を本書に見よ！ 保母志望者亦必讀

※ 幼稚園には幼稚園の意義があり使命がある。それは單に幼児の保護に任ずる所でもなく、又況んや小學校の豫備に終始するものではない。本書は此幼稚園本來の使命に鑑み、永き經驗を實際に體系つけた稀に見る傑出した研究である。

幼稚園ばなし

長尾豊先生著 價一・八〇 送料一・四

幼稚園の舞踊

石井小浪女士著 價〇・八〇 送料〇・八

實物提示 幼児に聽かせる話

久連松弘先生著 價二・三〇 送料一・四

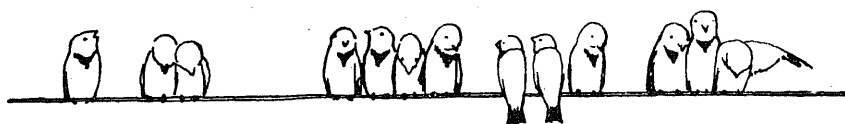
動作のやさしい唱歌

厚生閣編輯部編 價各一・〇〇 送各〇・八

【内容抄】 緒論——一幼稚園の本質と使命・二幼稚園發達の史的概観（史的概観について・世界に於ける幼児教育の發達・日本に於ける幼児教育の發達）・三幼な兒の心理（心理的區分・幼稚期の心理・幼兒の心理） 本論——一幼稚園保育の方法・二各項目の取扱・遊戲・唱歌・觀察・談話・手技・三養護（保育目的と養護・養護施設・養護要目・養護上の注意）・四躰方（幼稚園に於ける躰方・強く正しくすなはな兒・躰け方への注意）及び注意・躰け方細案）・五年中行事・六設備（良き保育としての物的條件・法令上に示されたる設備・最低限度に於ける設備）・七個性調査及び家庭との聯絡（個性調査と家庭調査・家庭との聯絡） 餘論——一教科に於ける小學校との聯絡・幼兒生活の道德的特殊性と道德教育・文字と書方教育・幼兒の數學教育・幼兒と國史・幼兒の理科教育・入學前に於ける體育・入學前の唱歌・五六歳兒の手工に就いて・二保母のあゆむべき道（根本的存在としての保母・人としての保母・母としての保母・主觀的修養・客觀的修養）——以上小項目全部省略

閣生厚

東京電話 東區九段三丁目 番六二〇〇 番八〇〇六



號三第 育教の兒幼 卷四十三第

—(次 目)—

口繪 (春が来る 春が来る)	倉橋惣三 (一)
卷頭 (子ども達の顔)	鈴木積善 (二)
佛教の幼児教育	岩村清四郎 (八)
基督教主義の保育	廣瀬興 (三)
就學齡兒の保健	葛原齒 (六)
幼児教育と童謡 (二)	岡篤郎 (二六)
最近大阪市の幼稚園の情勢とその保育について	成田順 (三)
幼児の服装について (三)	大塚喜一 (三五)
直き心	
愛兒の幼稚園生活	
「皆さん云ふ」心持	志波末吉 (二五)
感謝の二年間	緒方こみ子 (二九)
母の言葉	西川まよ子 (四)
雑感	一幼兒の母 (四)
幸福の王子様	津田芳雄 (五)
小犬のお話	氏原銀 (五)
讀者より	
ある保姆さんの日記から	

武藏野音樂學校長 福井直秋先生著

(好評三版)

兒童唱歌七十二曲集

菊版洋裝美本

箱入全一冊

定價金壹圓貳拾錢

送料金八錢

兒童唱歌の基準!! 待望の名曲集漸く成る。

俄然大殺好評!
注文殺到!

こつき・わかくさ・ささぶね・みいちやん・ぶらんこ・たんぼぼ・シヤボンだま・あをがへる・ひよこ・さよなら・つばき・さくら・日の出・すずめのおやど・子ねこ・まりなげ・はしれ・國の祝日・ねむれ・青空・野ぎく・朝濱邊あるき・つつじ・山路・ねむりませう・月・兵隊さん・風車・こ門の電燈・みなしご・冬が来た・氷すべり・蝶々・川遊び・朝風・鯉のぼり・雲雀・池の緋鯉・登山・子雀・星のひかり・山家のちいさん・月のひかり・霧・雪・春景色・田舎道・琵琶湖・夏の山・盆踊・涼しき森・汽車の旅・残れる秋草・小さき星・落葉・郊外の秋・港のにぎはひ・懐しの友・冬枯・花見・春風・小舟よ・あやめ・松風・懐し我が母・川邊の柳・うれしや我は・清き小川・冬の夜・親の恩

新尋常小學唱歌伴奏解説

全六拾錢
定價各六拾錢
送料六錢

子供の舞踊

卷一・二 低學年用 各金一六〇〇
卷三・四 高學年用 各金一〇〇〇

好評重評版

福小學唱歌教材の選擇に就て

全一定價四五
冊一 千六

エホンシヤウカ春・夏・秋・冬の卷

定價各金三五
送料二

會協版出書育教樂音

東京市神田區 東三崎一丁目 二ノ

振替電話 東京神田區 四〇八三



春
が
来
る
春
が
来
る

附
屬
幼
稚
園

幼 兒 の 教 育

昭 和 九 年 三 月

子 ども 達 の 顔

この子きも達の顔が、おきになつてきんなに變るだらうか。この顔に髻をつけて見、この顔に髪をいつて見るのは、想像のいたづらがさせる楽しい興味である。しかも、この美しい貴い顔が、いつまでこのまゝでゐて呉れるかと思ふき、かすかなさびしさが湧かないでもない。

この眼よ、いつまでも惑ひに濁らずにゐ、この唇よ、いつまでも偽りに歪まずにゐて呉れ。この頬よ、いつまでも明朗の輝きを褪せさせずにゐ、この額よ、いつまでも潤達の伸びやかさを失はずにゐて呉れ。

わたしは、子きも達の顔をもう一度ぢつと眺めて、いつも、今のこの顔のまゝで、この一人々々を覺えてゐたいと祈らずにゐられない。

佛教の幼児教育

非草幼稚園 鈴木積善

はしがき

最近佛教保育といふ言葉が大分用ひらるゝやうであるが、これが單に佛教に關係ある者の施設經營乃至は従事するが故に、かう名づくるものゝすれば、それは非常に淺薄且つ誤れるものである。何故かといふにかくすることによりて徒らに黨中黨を建てることになり、且つ保育が宗教宣傳の手段となるの虞れがあるからである。勿論他の宗教の場合も同様である。保育なり教育なりは飽くまで兒童そのものゝ爲めであつて他の手段や方便の爲めであつてはならない。

若し佛教保育といふことを言ひ得らるゝとすれば、それは佛教が單なる宗教であるばかりでなく教育であるからである。換言すれば佛教は教育的の宗教であるからである。由來佛教は哲學的の宗教であることは一般に認められてゐるが、教育的の宗教であることは餘り知られてゐない。

佛教は佛陀(Buddha)―覺の意―の教、又は佛陀たるの教であつて、覺醒生活を教ふるものである。即ち人間のめざめを尊しゝするものである。佛教が宗教であるにないに拘らず人間は覺醒生活即ちめざめでなければならぬ。而してめざめの教育は全人的であると同時に全生的である。未生前既に願子即ち申し子の信仰の説かるゝも見逃してはならぬことである。全生教育として、人生教育は双葉より培養すべきであるから、幼兒の保育が重要さるゝ所以である。

一、生きる教育

めざめるといふことは先づ人間の尊嚴にめざめることを第一とする。人間の尊きは單なる存在(ある)でもなく、生存(生きてゐる)でもなく、本當に生きる(生活)してゐるのである。

大自然は生々進化止まざるものである。これ如來(Parabrahma)の大用である。如來は如々來現の謂であつて、その如來の力は畢竟、らしく、現はるゝことである。花は紅、柳は綠、草木は草木らしく、禽獸は禽獸らしく、人間は人間らしく現はるゝのである。人間の人間らしきは單なる呼吸飲食する—禽獸はこの範圍を出でない—に止らず、更に成敗得失に支配さるゝことなき眞實の生活である。

眞實の生活は大自然の流れに順應して素直に生きることである。これ教育の根本である。換言すれば、大自然の進化の理法に順應し造化の實相に相應する處に教育の根本がある。これを觀實相といふ。畢竟自然は進化止むことなく天地一切をして生き生かしてゐる。岩石草木一切が生き進み行く姿に學び、自らも生き、一切も生き生かさしむる所に眞實の生活があり、生命の教育がある。

現在の教育は餘りに形式的注入的でこの生命が缺けてゐる。根本の信念が培はれてゐない。

二、靈肉一致の教育

古來靈肉の關係を見るに四つの様式に分けることが出来る。

- 一、靈(精神)と肉(肉體)とは全然無關係なりとなすもの
- 二、靈は尊く肉は卑しきものとなすもの。禁欲主義これである。
- 三、前者の反動にて肉主靈従となすもの。本能尊重、自然主義これである。
- 四、前者の弊害を認め、兩者を調和せる主張であつて、即ち靈肉一如となすものである。

現今行はれてゐる思想は靈肉一如であることは論を俟たない。肉體は罪惡の塊であり、心は精靈の貴き宮殿なりをなす考へは宗教にありて最も多く見らるゝ所であるが、佛教はこの二元的の考へを打破し、色、心不二、身心一如なることを高潮した。精神も天地の偉大なる力の發現であると同時に肉體も亦然りである。故に精神獨り尊くして肉體獨り卑しきものではない。肉體も悪く現はすまきは罪惡の塊となり、善く現はせば尊き働きをなす。即ち物と心とは區別さるべきものでなく所謂色心不二である。畢竟物とは外からこれを眺め心とは内からこれを眺めたに過ぎない。物をば總てを定量(二十一)とし、心として取扱ひ、心とはこれに反し不定量(二十二)としてこれを見たのである。

人間の肉體 一面肉體は惡魔でもある。肉慾の現れは罪惡である。然れども如何なる善事をも肉體を離れてはあり得ない。如何なる善き考へも肉體これに従はざるまきは單なる空想に終る。故に肉體は惡魔であると同時に如來身である。

人間が草木禽獸に勝る所以は精神のめざめと共に、この身體が各自の分擔せる仕事に服す、即ち働く所にある。然もその働くや、いや／＼勞働する(地獄)のでもなく、何等の目的もなく盲目的に働く(畜生)のでもなく、又慾多く不平斷えざる生活(餓鬼)でもない。——この三者を三惡道として却けてゐる——この三惡道に墮せず現在の仕事に全身全靈を打ち込んで喜び働く處に眞實の生活がある。

この喜び働ける陶冶性を養ふことが大切で、遊戯、體操、作業なきの重要なる所以も此處にある。

人間の精神 普通精神を分ちて知情意の三としてゐるが、佛教に於ては、この精神の病氣を貪瞋痴の三とし、これを三毒として極力排斥してゐる。痴は知識の病院に入れる形で所謂物識りである。痴者に徒らに知識を與ふれば益々重病となる。仍てこれを治する爲めには眞實の智慧即ちめざめみかくやうに導く。嗔は自我的動物性を中心として起るものであつて慢と表裏の關係にあり、癡癩、高慢となる。これに對しては輕安なる心持(即ちよろこび安んずやうにする。實は慾深で

あるからこれに慾を與へては駄目である。慾を轉向して、いさみすまひむるやうにすべきである。これを表示すれば、

知——痴——めざめみがく(智慧)
心——情——瞋(慢)——よろこびやすらふ(輕安)
意——貧——いさみすまひ(勇猛精進)

これを要するに、靜寂輕安な心持の中に研究改善怠りなき勇猛精進の力を養ふを根本としてゐる。これ即ちめざめ、道であつて、現在の器械的注入主義、記憶主義に對するよき警鐘でなければならぬ。

三、恩の教育

佛教にては因果假説、緣起實相を説く。普通因果を説くは假りの説明であつて、宇宙の實相を見る爲めには緣起によらなければならぬ。經に「緣起を見るものは法を見、法を見るものは佛を見る」といふてゐる。

天地一切のものは悉く緣起即ち諸條件の集合の現れなりを見る。即ち一物として單なる獨立せる存在はなく、悉く皆これ衆緣和合の力なりとなす、一木一草皆な天地自然の恩力の賜である。故にこの私なるものも亦天地祖宗の賜であつて元來我なる存在はない。即ち無我である。時間的には近くは父母より遠くは祖宗の流れ、空間的には、親戚、知己近隣より知るに知らざるに論なき社會の人々、これを統一せる國家、これを統治し給ふ一天萬乘の君主、更には見るに見えざるに論なき天地冥加の力、これらの恩力が縮りて我となつてゐるのである。我の今日あるは、天皇陛下を初め奉り、天地一切の賜、所謂世間様、御馳走様、お蔭様に外ならない。

「我物と思ひば輕し笠の雪」。これ普通の人情である。我なり我物と執する處に、強情、我慢、懈怠等が出る。無我に徹したときお蔭様、お合掌するこゝが出来ぬ。此處に、知恩報恩、無私奉公の姿が現はれる。私がするのでなくさせて頂くの

である。いふ信受奉行、感喜勇躍の生活となる。明るく輕安な氣持で喜び働く爲めには知恩報恩の教育が必要である。現在の教育は餘りに近視眼的であり功利主義である。

この考へが物に對しては、一木一草も雖も天地の現れであり賜であり來身なりとするときは、無限の價值を持つ、我なるものなし、況して我のものなるものもない。即ち無我所である。一切のものこれ天地の預り物に外ならない。預り物であるが故に、所謂勿體ないのである。勿體なきものなるが故に大切にしなければならぬ。親鸞上人が床上の紙屑に對して「勿體なやこれも天地のお寶」にして合掌されたのもこれである。

此處に物に價格ならざる價值を發見することが出来る。コップを毀したとする。若し普通の場合は十錢損したといふ。これコップの價格より見ないのである。けれども天地の限りなきお蔭様の結晶を見るべき價格は假令一錢のものでも價值は無量無限である。此處に「勿體ないことをした」といふ反省と眞の物を大切にすることを考へるのである。

現代はねだんのみを知つてそのねうちを見ることを忘れてゐる。おがむこぎが出来るものはねうちを見るこぎが出來、ねうちを見出す處におがむ姿が現はれる。

現代の教育にはこの尊い合掌の教育、價值の教育、おがみ働く教育が缺けてゐる。

四、作業教育

觀實相といひ、身心一如といひ、信受奉行といふも、これを畢竟するに、いつでも(一切時)どこでも(一切處)何でも(一切事、一切物)、研究改善意りなく、明るく正しく、全身全靈を打ち込んで喜び働くといふことに歸する。此處に作業教育の原理がある。

釋尊がすゝめられた子守歌に「さめよ、起てよ、動け、よろこべ」(覺起經)といふのがある。又釋尊が常に弟子達に出家

こ在家を問はずに常に訓へられたる言葉に「一日作さざれば一日食はず」といふのがある。この一日不作一日不食は人口に膾炙してゐる語であるが、これ等によりても釋尊の作業教育の思想を知ることが出来る。

佛教の幼児教育は詮すれば作業教育であるといふことも出来る程重要なものである。而して作業教育として最も大切なことは作業欲の培養と農業的共同作業である。

佛教は教へざる教育、めざめ育てる教育であるから、仕事をしたがる芽を損はずに培ひ伸ばすことが大切である。この作業欲の培養は次の三となる。

一、業務發見力 自分で仕事を見付けてするやうに導く

二、業務實行力 見付た仕事は必ず實行する。佛教は戲論を徹底に排する。

三、注意集注力 失敗なら失敗、成功なら成功で、その原因を明にし注意を集注せしめるやうにする。

次に縁起の實相を味はしむるには個人作業より共同作業をよします。特に、天地自然の恩恵によりて育て養ふ所の農業を第一とすべきである。

むすび

本稿をものこしてゐる際、幼児の教育、二月號を手にし倉橋先生の冠頭言「いきくしき」といふのを見て思はず快哉を叫んだ。いきくしきはあなたばかりではない。世の父たり母たり師たるものは皆これを必要とする。そのいきいきしさは「死」のある所には存在しやう筈はない。いきいきしさは「生き生かす」所のみ見出される。

いきくしきを欲するものは先づ自ら生きねばならない。めざめねばならない。創化の實相に相應する生命の教育、價値の教育生きる教育は其處から生れる。

(昭和九・二・二四日)

基督教主義の保育

めぐみ幼稚園長
師

岩村清四郎

先日、「幼児教育」編輯部の方からお手紙があつて「若しキリスト教主義も申すものがありませんれば、それを保育の中に如何に取り入れて居らるゝか」云ふ質問を受けました。

世の中にはミッシェン式の保育云はるゝものに對して或る型を見出さるゝらしいのであります。又實際一つの型が存在して居るゝ私も存じます。けれ共其型なるものを一種の形式として見る時には眞實のものに觸れない恐れがあります。

我國の保育の歴史を見ましても、宣教師が移入してくれた幼稚園なるものは、確かに此方面での先覺である事は否む事は出来ずまいと存じます。それだけに、古い時代に教育を受けて日本に來た宣教師が指導してくれた、保育なるものには、それだけの形式がついて廻つてゐた事は止むを得ません。こゝやつて宣教師が自分の覺えたものを傳へて居る間に米國、英國、カナダ、獨逸に於ては、それぞれの進歩を示して、形式上に於ても變化を來しました。其進歩した形を直ちに取り入れて保育をして居る教會外の人々からは、所謂ミッシェン形式云ふやうな名前を以て呼ばれるやうになつた事は自然の勢かと存じます。けれ共、ミッシェンも何時迄も、舊時代に教育を受けたお婆さんへのみ指導は致されて居りません。此十年來、第一時代の人々は殆ど去つて第二時代の潑刺たる人々が入つて來た外に、指導の位置は宣教師の手から日本人の手に移つて來ました。今尙ほ、地方には所謂ミッシェン形式なるものが残存してゐるかは知りませんが、大體に於て變つた、進歩した形式でやつてゐるのであります。けれ共、私共の幼稚園には私共獨特の精神——従つて形式なる事の存在する

ここは否む事は出来ません。之が無いならば、私共の使命はないと思ふのであります。然らば其獨特なるものは何であるか申すならば、私共の世界観、人世観から出發するものでありますから、之を闡明するに非ざれば、キリスト教的の保育なるものは出て来ません。キリスト教の神観、人世観は如何なるものであるか云はるゝに人々々々其體驗する所が異なる如く、其内容も千人千態ではありますが、之を大握みにしかも教育に直接に關係ある部分だけを申しますれば、

- 一、天地宇宙を創造し、之れを守り、之れを支配する神のある事、此神は全智全能であつて聖にして愛と義なる人格的存在者であること。

- 二、此神の性質、内容はイエス、キリストなる歴史上の存在を通して明かに啓示せられたること。

- 三、神の創造物の内、人間は他に比類なき存在として造られ、神に最も近く、其本質に於て神と實質に造られたこと。「神の全きが如く全くなり得ること」(マタイ傳五・四八)又神のみの持ち給ふ創造力を賦與せられたること。

- 四、けれ共人間の中には其持つ神性は凡そ縁の遠い肉と云ふものが存在する。「肉の事を思ふは死なり」(ロマ書八ノ六)と使徒パウロが指摘して居るのは此點であつて、此肉の力は靈の力と相對峙して居る。此靈肉の力の戦ひが人生の綾をなしてゐる。

と云ふのであります。

ルソーが其不朽の名著、「エミール」の卷頭「神は萬物を善く造り給ふた。人間が手を出さず惡くなる」を斷案を下して居るのもフレーベルが「人の教育」に「人間は其生涯に於て次第に自覺力、思考力、理解力等を現はすに至るべきものである」が、此人間が意識的に自由意志を以て其本質たる神を完全に發揮し得るやう指導を與へるのが即ち人の教育である」と云つて居るのも皆共に、此基督教的神観、人間觀から出發して居るものに外なりません。

若し保育の上に、少々なり共、他の保育と異なるものがありとすれば、右の根本概念の現はれに外なりません。

第一、私共は宇宙を必然的な善意志と見てゐます。決して偶然に存在するものでなく神之れを作り、之れを「善しと見給ふた」(創世記一ノ四)もので、我等を環る自然其物は神の善意志の現はれであります。私共は其中に包まれて、心よりの讚美をなすのであります。私共の自然觀察は、此神の善意志を見る事になります。故に私共は「人間が科學の力で自然を征服する」など云ふ對立的な言葉で云ひ現はさるゝ概念でなく、自然の神祕を開く事によつて、そこに神の啓示を見、神に近づき、神に融合し、神への躍進を信するのであります。キリスト教的自然觀は此點に於て樂天的であります。

第二、此頃流行の言葉である問題の子供は私共にはない筈であります。本質的に、神と同質である人の子は神に向つて伸びつゝあります。若し、之れが隙けられてゐるとすればそれは人間の方面、即ち、私共の方面に落度があるのであつて其子供には罪はない筈であります。故に問題の子供の重點は、其子供から移つて、其両親、家族、社會、教師に反省を求むべきであります。

第三、創造は神の意志であり、人間の特權であります。「我父は今に至る迄働き給ふ、我も亦働くなり」このキリストの御信心は、又人間の創造の歡喜であります。保育上に創造を第一義とする所以はこゝにあります。フレーベルが「人の教育」の總論の終りの方に、「抑々神は常に創造し、間斷なく働き給ふ。神が考へ給ふ事は即ち働き給ふこと、又創造し給ふ事である」云つて居るのも此概念であります。

第四、教育の目的は其個人が持つて來た天賦の力を極度迄發達せしめ、自個の個性に従つて社會のため最善を盡す事を自覺せしむるにあるのです。

私共は此自己完成の事實を一の抽象論とは見ません。歴史上の人物イエスを目標とするのであります。如何なる點を目

標を定めるかを申すなら「我等キリスト教徒に取つては、イエスは人類の知つてゐる内で最も高い最も完全な生命をもつてゐる。實にイエスの生命は自己存在の本源を明瞭に自覺した所の生命である。此最高の模範的生命に學ぶべき事は、各人銘銘が自分のため又他人のため、自ら斯の如き模範的生命となるべき事である。」云ふフレーベルの言は此事を云ふに外ならないと思ひます。

第五、ブラット教授は、宗教には四つに分けらるゝ特殊な氣風がある云つて、一、傳統的な氣風。二、合理的な氣風。三、神祕的な氣風。四、實際的な氣風とし、此氣風は其人の性質に從つて、其屬する所が定るけれ共亦年齢により、幼少の頃は、傳統的に、長じては合理的に、神祕的に、實際的に變つて行くを指摘して居らるゝが、之れを若し眞にするならば、幼稚園での宗教指導は此傳統の方面から入らねばなりません。即ち形式的、歴史的な、具體的な方面であります。

之れが具體化されたものに、朝の輪があります。祈、讚美、談話となつて現はれて來ます。之れも決して、形式によつて宗教を強ひるのでない事は申す迄ありません。人間の本性に備はる神性が、幼少の頃には、此様な形になつて現はれて來るものであるから、其赴く所に從つて誘導する云ふに外なりません。

以上、取り止めもなく述べましたが、も一度振り返つて見ますならば、教育の目的とする所は—學說によつて違ひも致しませうが、人間として最高の理想に醒めしめ、それを自身に實現させやうとする努力に外ならないとすれば、取りも直さず、宗教の求むる所と同様でありまして、宗教は其特長とする感激を以て、此事業に當るのであります。

之れを要するに、宗教幼稚園の特長、否キリスト教幼稚園の特長は、神を信じ、人を信じ、之れより起る感激によつて保育に當る云ふのが、特長であらうかを存します。

就學齡兒の保健

醫學博士 廣 瀨 興

一般の家庭に於て、小兒が學齡に達するに必ず直ぐ、入學させねばならぬ様に考へ且つ遅れることは恥じの様に考へてゐます。又、反對に盲啞兒吃音兒又は其他の不具兒はその教育機關の完備せぬのも原因ではあるが一般に痛々しく思つて就學を遅らせて生涯、取りかへし付かぬ様にして丁ふこもありません。小兒が學齡に近づいた時は、充分、小兒の心身の發育を考へて適當の處置を取り、其の小兒の一生を誤らぬ様にしてやることは、其の保護者の義務であり、且又、社會の連帶責任でもあります。然らば如何んな小兒は入學を遅らせ、如何んな小兒は適當の方法によつて却つて早くから教育すべきでせうか。勿論、適當の専門家の相談は必要でありますが家庭に於ては、尙一層充分の注意が必要です。次に其注意の二三を上げて見ませう。

學校の選擇

上級學校への入學や其學校評判等から、其小兒の體質の如何も考へず、遠距離の學校や、過度勉強に陥らしめる（止むを得ず陥る場合も）様な學校に入學せしめる親があるが之は見す見す小兒を殺す様なものである。大學の卒業が一年早くとも弱い體質のために一年就職が遅れれば結局何んの利がないばかりか、却つて、重大な精神的打撃であります。入學試験競争の極めて激烈の模範的の學校で中途落伍者の續出する實例が随分多いものです。小學校は成るべく近く通學に過勞ならぬ程度、周圍の保健的のこゝ、學校舎の設備殊に衛生的に完備してゐるこゝ殊に其校長が學校衛生に眞に充分に理解し實行しつゝあるこゝが必要で、保健設備は相當に完備し、相當に理窟は云ひ乍ら、生徒個人々々に付いて少しも行届かぬ學校が多いこゝを實見してゐる。囑託醫や學校看護婦が充分活動して居らぬ學校

は心配である。如何に教育的方面が充分でも身體的方面が疎かである學校は危険である。入學前、愛兒のために入學せしむべき學校を訪れ、其學校舎並び其學校の教育方針を充分に調査することが如何に大切であるか。小兒の手洗所、便所、小便室の清潔、湯沸し所、湯呑所、教室の通風特に注意、暖房装置、日當り、治療室、日光浴室、體操場、榮養食供給の有無、授業課目、園藝の如何、夏期の林間又は海濱保養施設の熱心さ等、種々の條件を考慮に入れて學校を選択すべきである。次に小兒自身に付いて注意すべきは

アデノイード兒

高度のアデノイードを有し、常に感冒に患り易く、頭痛、神經質を訴へ特有のアデノイード體質があるなれば入學前に手術する方がよろしい。入學後であるこその間に智能が遅れ、他の小兒より成績が悪るくなり、その小兒の出發點に大なる影響を與へるこゝになる。扁桃腺兒も同様であるが唯、單に扁桃腺が肥大してゐるのみで平素何等の障碍を訴へないものは大體に於て放置して置くべきは年齢の長ず

るに従つて縮小するものである。

近視、弱視、色弱兒

高度の近眼、色盲は大抵、入學前に發見されてゐるけれども、輕度のもものは應々不注意に看過されて不識の中に種々の障碍を残してゐるこゝがある。殊に不完全の色盲は發見が困難であるから注意すべきである。彩色が不得手であつたり、常に頭痛を訴へたり、物事が粗々で物を毀したり、躓き易い様なものは注意を要するであらう。近視と思つて近眼鏡をかけ神經衰弱となつた亂視の小兒の例を知つてゐる。之も充分注意を要する。疑ひがあるなれば専門醫に視力検査を受けて正確の眼鏡をかけねばならぬ。眼鏡店の店先の検査は危険である。

難聽兒

耳の遠い小兒も其程度によつて氣付かないでその爲めに低腦兒扱ひにされたり。學業が次第に遅れたり。従つて本人も神經衰弱や自暴自棄になるこゝがある。アデノイード。中耳炎等のため輕度の難聽兒は學校の席次を前列に置くべきか、補聽器を用ひさすか適當の方法をなすべきで

ある。

榮養不良兒

貧困家庭にのみ必ずしも榮養不良兒が發生するのでなく、上流子弟にも同様の小兒を發見する。それは不良さまで進行せずとも榮養不適さも稱すべきでそのまゝ續くときは不良體質なるべきものが相當多數にある。上中下三階級を通して、食物の偏食より來るこゝ極めて多く、託兒所幼稚園に於ける虛弱兒の三分の二はこれに原因するこゝ云つても過言ではあるまい。斯る小兒は却つて入學後受持教師と協力してこの偏食の矯正に努力するこゝが出来る。

結核兒、腺病質兒

體質薄弱にて時々微熱を訴へるが如き小兒は必ず一年就學延期する方が適切である。この小兒期の初期に充分の休養を攝らすこゝが如何に將來この小兒にまつて良好の結果をもたらすか、吾々の平素、數々實際に遭遇するこゝろである。かゝる小兒は智能も發達良く、少しの苦痛なきため、本人は勿論、家庭でも如何にも遺憾に考へるために決心が困難である。併し適當の治療的設備と經驗のある林間又は

海濱の教育治療院に入學せしめるなれば結構である。この場合その施設は餘程の選擇を要する。一般に我國に於ては林間よりも海濱の方をよろしとする。湿度の關係である。我國に於ては學齡前幼兒の海濱保養所の適當の施設はない。家庭に於ては一年間を入學せしめたものとして全力を上げて教育と保育とに心掛けねばならぬ。その方法は各地に發達しつゝある小兒保健所(兒童健康相談所)の協力に待つがよろしい。榮養、日光、睡眠の合理的供給の方針である。

腺病兒の方は却つて入學せしめて、他の小兒と區別して教育するこゝ。その程度にもよるが、雨降り、雪の寒冷の日等は休校したり、體操の時間は日光浴に代へたり。肝油の適當の給與等、治療しつゝ教育せしめるのであるがこれこそ學校當局の理解と正しい指導が必要である。斯る小兒は却つて家庭に保育するより一層効果の上るものである。腺病兒の保育には大體に於て、積極的に行ふものゝ消極的に行はねばならぬものゝ二種類のあるこゝは既に本誌に述べたこゝろである。

變質兒、精神薄弱兒、癩癩兒、

低腦兒

是等の小兒は勿論、一般小兒と同様に教育することは出来ぬが、成るべく早くより教育を開始する方がよい。殊に變質兒の中、二ヶ月の治療によつて大體恢復するや否を決し得るものであるから、専門家に相談を成るべく早く致すべきである。

盲啞兒吃音兒不具兒

是等の小兒は從來種々の事情殊に憫憐さよりして教育が遅れ勝ち、又は全く未教育のものが多く状態である。併し現今は「最早、地上に啞者は無し」と云はれる如く、斯る小兒の特殊教育は極めて發達し、本人の自活に事缺かざるのみならず、却つて相當の生産能力さへ發揮しつゝあるものがあるから、我國でも一般も自覺し、當局者も努力して、斯る不幸の小兒をして少しでも幸福に導くべきである。

要するに就學齡兒に對しては細心の注意を以て彼等小兒の畫期的生活變化に對して總ての方面より考究し最善の方

途を講ずべきで、若しこの期に適當の指導を誤るこきは本人の不幸に止まらず、その家庭の、引いては國家社會に及ぶ影響の大なることを思はねばならない。

幼童教育と童謡 (2)

葛原 菫

A、覚え易い童謡と覚え苦い童謡

〔その一〕

それは、極めて簡單です。コドモに氣に入る童謡が、覚え易いのです。コドモに悦ばれる童謡が、覚え易いのです。

それでは、何んな童謡が、コドモの氣に入り、コドモに悦ばれるのでせうか。それは、まづ、

分り易い上に、

面白いものに

でせう。

それでは、何んなのが、分り易い上に面白いのでせう。

これには、簡單に答へられませんが、

1、コドモの生活に即したる内容であり、

2、コドモの氣持に合つた形態のものでありませう。

更に、近頃の理想から考へますと、その時だけ、コドモの氣に入り、コドモを悦ばせたからといつて、それだけで、安心してをられません。その童謡が、それを與へられそれを歌ひ、それを遊戯し又舞踊してゐる時だけ、面白くて、嬉しくて、悦ばしくても、コドモは、幸福ですが、それを反復する中に、おのづから何かを植サマシクえつけられて、成人後まで待たないでも、小學校に入り、中等學校に進んだ時にでも、歌謡や、遊戯や、舞踊サマシクしてとなく、其の他の其の何物サマシクを以て、そのコドモに正しく善く影響し得るものである事を、望みます。

童謡も、勸善懲惡や、修身例話めいた結びを必要としないので、それを讀み、それを聞いてゐる間だけ、面白くて、嬉しくて、悦ばしくさへをれば、よいのもありますが、更に進んで、それ以外の何物サマシクを求められてゐると同じ

く、童謡にも、之を求めたいのです。

たゞへば、次の「雪」の如きは、

1、雪

小松耕輔氏曲

一、降れくくく さんく降れ

野山に降れ 庭にも降れ

真白い雪 休まず降れ

きれいな雪 さんく降れ

二、降るくくく さんく降る

野山に降る 庭にも降る

真白い雪 休まず降る

きれいな雪 さんく降る

(「大正幼年唱歌」第四集)

こいふのですから、「降れくくく」降るくくく「こいふに止まつて、分り易いこいふ事他には、褒め様のない凡作です。たゞ、曲の面白さによつて、多少の存在価値はあるのですが、

雪は、野山に降る、

庭にも降る

休まず降る、

なごう、今更めいて、あげつらふこも無いのです。次のさんびになります。形式は同じでも、多少、異なつた狙ひがあります。

2、さんび

梁田貞氏曲

一、こべ こんび 空高く

なげ なげ さんび 青空に

ピンヨロー ピンヨロー

ピンヨロー ピンヨロー

たのしげに 輪をかいて

二、こぶ こんび 空高く

なく なく さんび 青空に

ピンヨロー ピンヨロー

ピンヨロー ピンヨロー

たのしげに 輪をかいて

(「大正少年唱歌」第一集)

こいびます。

空高く―しかも、青空に、

こらふ事。

輪をかいて

こいふ事だが、明確になります。そして鳶が、朗らかに、
ピンヨロー、ピンヨローと、高鳴きして輪をかいてゐるの
は、ほんみに、樂しげに、自ら悦んでゐるのでせう。のび
かに―げに、朗らかに、そして、滑らかに、ピンヨロー、
ピンヨローと。まことに、あの聲の澄んでゐますこと。

これは、この作曲者にまつても十数年前の傑作の一つで
ありまして、現にこの平凡な敘述で終らせなくて、もすこ
し、内容のある歌詞に改作したいとも、作曲者と相談中
もあるのですが、しかし、此のまゝでも、曲の力によつて、
役立つてゐる様です。

右二篇は、同じ形式に成るものですが、次の「お星様」は、
(1)に近いもので、あまりに凡々であります。即ち、

お星様

梁田貞氏曲

一、ピカッ― 光れ 御空の星よ

きれいな色で のこらず光れ

小さな星も 大きな星も

空一面に ピカッ―光れ

二、ソヨッ― 風が 御空で吹けば

きれいな星が のこらず光る

小さな星も 大きな星も

すよしい風に ピカッ―光る

(「大正幼年唱歌」第七集)

でありまして、何の新発見もなく、何の特殊性もありま
せん。第二節のいふところが、多少、詩としての面白味
がありません。

以上三篇は、第一節と第二節とが、全然、對立して、向
き合つて、照應してゐるのですから、覺え易いこと、此上
はありません。

〔その二〕

日本全國津々浦々にある古來、日本のほんこの童謡の一
こいはれてをる「夕やけ小やけ」があります。あれが、學校

や幼稚園の唱歌としては、あまりに、短かいといふので、

遠くの方の森へ、鳥も、喜んで歸るから、

私達も、早く歸りませうよ、暮れぬ間に――

こいふこゝを添へたのであります、幸にして、曲の冒頭が、あまりに能く知られてゐるものであります、が何こいふ事なしに、木に竹をついだ様にならないで、よく、まごまつた曲になつてゐるのは、作曲者の優れた技術です。

夕やけ

小松耕輔氏曲

一、夕やけ こやけ

明日 天氣になれ

遠くの方の山へ

鳥が 喜んでかへる

二、夕やけ こやけ

明日 天氣になれ

歸りませうよ 早く

暮れぬ間に 早く

(「大正少年唱歌」第二集)

これは、幼児にまつて、歌ふ事を教へられるに先だつて、

耳にしてゐる「夕やけ小やけ明日天氣になれ」の句で起るこいふ事の爲に非常に親しみ易いものになつてをります。しかも、その曲が、その自然のリズムより一步も出でないので、苦もなく、つりこまれてしまふのです。あらゆる童謡に、この自然性を、曲の方でも、尊重したいものです。

〔その三〕

同じ二節から成るものでも、同一のものを歌つたにしても、既述の數篇の如く、對照でなくて、逐次敘述するものは、一般の敘事唱歌と共に覺え易いませう。次の『小さな鯉』にしても、それでありまして、

小さな鯉が、麩を食べかねて、水の表面に浮いてゐるのを、唯、つゞきまはしては、食べかねてゐる

こいふのです。それを二つに分けて、第一節では、「バクバクこつゝくこいひ、第二節では、「バクバク泡ばかりはいてゐる」こいふのです。誠に、分り易くて、面白くて、しかも、第一節の終りの「つゞきます」が、第二節を起す所の「つゞいてみても」に繋がりますので暗誦に、樂な事此上は

小さな鯉

小松耕輔氏曲

ありません。且つ又、修辭の上に多少の手心もしてありますのが、極めて有効に生きてゐるに信じます。即ち、

一、小さな鯉に 麩をやれば
大よろこび で よつて きて

小さな鯉……………
大よろこび……………

皆で バクバク つまきます

二、つゝいて見ても たべられぬ

…………… たべられぬ
…………… たべられぬ

麩は 大きくて たべられぬ

皆で ブクブク 泡ばかり

皆で バクバク——
皆で ブクブク——

(「大正幼年唱歌」第二集)

のち、これに、更に修辭上の手を加へて、次の様にしました。即ち、第二節が、

たべられぬ
たべられぬ

ですから、第一節も、ミ苦しんで、やつミ

——ミ

——て

よつて きて——

つゝいて みても——

——大きくて——

の反復も、同じ動き方をします。

ミ、タ行の韻にだけ、整へ得たのでした。しかし、その不
充分は、二節ミも末行が、よく揃ふやうに、

みんなで つくく バクくくく

みんなの あわが ブクくくく

みなしえた事を悦んでるます。

乃ち、同じ材料でありますが、こちらが、幼児に歡ばれますか、廣く御研究も願ひたいところですが、題も、別々に

『小さな鯉』

『鯉と麩』

しました。何れが、適切なのでせう。

鯉と麩

宮城道雄氏曲

小さな鯉に 麩をやるこ

大よろこび で よつて来て

みんなで つくく、バクくくく

つゝいて見ても たべられぬ

麩は 大きくて 食べられぬ

みんなの泡が ブクくくく

(「箏曲童謡」第一集)

B、幼児の心を混亂さす憂のある童謡

〔その一〕

心を整頓さすなごいふ事を、童謡について考へるのは、純正な詩論からいつて、岐路に入るものですが、教育上、考へてみなくてはならない問題です。即ち、何よりの心の糧として與へらるゝ童謡の爲に、却つて、いろいろ意外な悪影響を與へられるものさへ有るに同じく、その内容、また、その形態が幼児向でないものがあります。多年、私共が排除しつゝけて來ましたところの、かの、あまりに哀調を帯びた感傷本位なものを初めとして、難解なもの、(用語に於て、内容に於て)大人趣味のもの、下品なもの、その他多くありますが、形式に於て、第一節と、第二節とが、あまりに相似てゐて、却つて、幼児の記憶に混亂を來すのです。これは、古來、よく用ゐられた修辭法でありまして、儀式唱歌などに、よくありました。

——かしこさよ、

——たふささよ

の併用です。こちららも大體に於て同じ意味であります上、

同じ曲の所に、それが出て來ます爲に、却つて間違ふので
す。童謠にしましても

——うれしいな

——たのしいな

を、同じ曲の所に出しては、却つて間違はれるのです。あ
る學校の校歌に、

我が君の爲、國の爲、我が國體の基なる

の二句が、同じ曲の所に出ます。するご、幼兒は、嚴肅な
式なきの時でも、間違つたものは、笑ひ出しますし、友が
笑ふま氣のついたものは、その方を見ますし、一度、その
經驗を経たものは、その所まで歌つて來ますご、「君の爲」
か「國體」かご、不安になつて、その前から聲は細くなつて
しまつてゐて、妙な、エキस्पレッションに陥つてゐるの
を、度々聞きました。

しかし、作曲家から申しますご、同じ節の場所には、同
一の詞、少くごも、字脚も、アクセントも同じ詞を求める
のでした。即ち、

同一曲譜により唱はるべき各節の同一行は、單に、そ

の總計的脚の均整のみならず、更にその小さき區切
り方、(例へば 4 3、3 4、2 5 等に分るゝ如き)及び
音勢は勿論、語種の配合、語感、意味上の強弱、等も、
なるべく一致すること

を求めるのでした。これは、尤もの事ですが、この爲には、
特に、幼兒の童謠に於て、例へば、

金魚

梁田貞氏曲

一、ゆらく／＼ ゆらり

あれ／＼ 金魚が泳ぐ

あんなに みごみな鱗をば そろへ

大きな金魚 小さな金魚

二、ゆらく／＼ ゆらり

あれ／＼ 金魚が舞ふよ

あんなに きれいな振袖そろへ

大きな金魚 小さな金魚

(「大正少年唱歌」第三集)

の如く、同じ場所に、同じ言葉を使ふ事が一番、その要求

に違つてゐるのです。しかし

第一節が、泳ぐのであるから、鰭をそろへるのであり

第二節が、舞ふのであるから、振袖をそろへるのであ

る

こゝ判断してしまへば、難はありませんが、さて、

鰭をば、「みごこな」形容し、

振袖を、「きれいな」形容したのに、

何か根拠があるかご申しますこゝ、それは、残念ながら、

確固たるものではありません。それだけ、ぐらつきます。

そこで、同じ言葉は、別の節の所で出してみたり、同じ

でなくて似た言葉を、同じ節に出したりしてみたものがあ

りますが、これは、果して、紛れ易くて、困つてをります

殊に、

風さへ吹けば、何時までも

風さへ吹けば、元氣よく

の如きは、その後が、全然同一であるだけに困ります。

風車

梁田貞氏曲

一、クルリ〜風車

休まず廻れ風車

クルリ〜風車

風さへ吹けば、何時までも

クル〜〜〜、クル〜〜〜

休まず廻れよ、よく廻れ

二、まはる〜風車

クル〜〜〜、休まずに

まはる〜風車

風さへ吹けば、元氣よく

クル〜〜〜、クル〜〜〜

休まず廻るよ、よく廻る

(「大正幼年唱歌」第九集)

この類に、次のがあります。まごこに罪な事をしたこゝ、

今更ながら、悔んでをります、「お芋」の方は

第一節が、竝んで

第二節が、ごちらも

第三節が、いくつも

だけの相違なのです。但し、これも、非常に細密に考へ、心理的に、此の順序は決めたのですが、一般には、それほど感じられないでせうしその必要もないのでせう、ミ、あきらめて、やはり、考へすぎたかと思つて、恐縮してゐます。

お辛ころころ

小松耕輔氏曲

一、お辛ころころ 大きい親辛

小さい子辛

竝んで ころころ

二、お辛ころころ 大きい親辛

小さい子辛

どちらも ころころ

三、お辛ころころ 大きい親辛

小さい子辛

いくつも ころころ

〔昭和幼年唱歌〕第三集

次の「日暮山霧」も、正に、これです。

第一節が、子兎

第二節が、子雉

第三節が、子鹿

です。これも、順序は、さうなつても、表現價値に甲乙はありませんが、唯、コドモに親しみの多い兎を第一にして、珍らしい鹿を最後にしたゞけの事です。

日暮山霧

梁田貞氏曲

一、日暮山霧 白い霧

谷一ぱいに わいています

子兎 小徑が見えなくなつて

歸られないので 泣いています

遠くへ遊びに下りすぎて

二、日暮山霧 白い霧

谷一ぱいに わいています

子雉も 小徑が見えなくなつて

歸られないので 泣いています

遠くへ遊びに下りすぎて

三、日暮山霧 白い霧

谷一ぱいに わいてます

子鹿も 小徑が見えなくなつて

歸られないので 泣いてます

遠くへ遊びに下りすぎて

(「昭和少年唱歌」第二集)

「お山の細道」は、曲の面白さに、小松氏のも、宮城氏のも、私自らも好きであり、全国のラヂオ放送にも、よく使はれてゐる曲ですが、

第一節が、狐ミ狸

第二節が、雉ミ兎

です。この四種の獸は、何んなに組合しても構はないのですから、それだけ、暗誦に不適當かミ、案じてゐます。

お山の細道

小松耕輔氏
宮城道雄氏曲

お山の 細道は

誰々通る 誰通る

狐の親子の通る道

月夜に 狸の通る道

お山の お山の細道は

誰々通る 誰通る

山雉子雉の通る道

月夜に 兎の通る道

(「新曲童謡」「お山の細道」箏曲童謡第四集)

そして、兩氏の曲趣の相違も、非常に興味ある問題を提示してゐるものでありまして、何れも、レコードになつてゐますから、御きゝ下さい。一つは、靜かな山道であり、一は、愉快な山道になつてをります。

(次は、「幼児の心の整頓に役立つ童謡」)

最近大阪市の幼稚園の狀勢と其の保育について

大阪市教務課 岡 篤 郎

(一)

大正十五年に幼稚園令が設定せられて以來、全國保育關係者の自覺は斷然百歩を進めた。又一般教育界に於ても保育に關する問題は、漸次其の認識を高めたかの感があることは誠に喜ばしいことである。

しかし眼を轉じて全國の保育界の形勢を卓觀するに、幼稚園の多くは都市にのみ設けられて居るかの觀がある。殊に最近は農村にも見られるやうに、都市に於ても托兒所、保育所等が幼稚園令によらず、一種の社會施設として全国各地に普及してゐる。現に大阪市に於ても幼稚園令による幼稚園の外に、保育所、托兒所の名稱によつて幼児の教養が行はれてゐる。そしてこの社會施設は公私幾十を算して、

其の兒童收容數も可成り多數である。然るにこれらの多くは、専ら現行幼稚園令による幼稚園保育の形式にのみ近づくことに努めて居り、季節的の托兒事業から永久的、通年の保育事業に變化し、保育上の仕事も全く幼稚園令の規程によるものと同じのものが少くない。此れら社會施設としての保育托兒事業は、其れ其れ本年の使命を忘れてはならぬが、此れも我國民教育上重要な保育事業であるから此れが改善統一上私共には斯の問題について今後十分なる研究を要する。

昭和八年十一月大阪市立幼稚園幼兒數調

區名	在籍幼兒數		計	園數	組數
	男	女			
北區	七二三	六七九	一、四〇二	八	三七
此花區	五五六	四八五	一、〇四一	六	二八
東區	九六一	九二六	一、八八七	一〇	五四
西區	一、〇〇七	一、一三〇	二、一三七	一一	六二
港區	一六五	一七五	三四〇	二	八
大正區	六五	五六	一二一	一	三
天王寺區	二一九	二一九	四三八	三	一一
南區	八一七	八一〇	一、六二七	九	四三
浪速區	四四三	四七五	九一八	五	二六
西淀川區	二八三	二五二	五三五	四	一四
東淀川區					
東成區	七二	四一	一一三		
旭區	七二		一一三		
住吉區	七二	六三	一三五	一	三
西成區	一五九	一八七	三四六	二	八
計	五、六四二	五、四九八	一一、一四〇	六三	三〇一

(二) 大阪市の幼稚園と保育團體

大阪市の公私幼稚園は最近著しく其の數を増して全市十五區に分布されて居る市立幼稚園は六十五で府のものが一

である。そして昭和八年度の收容園兒童は一萬一千人に達し、此の外私立幼稚園の數も約三十五園を算しその收容園兒童數は三千の見込である。是等公立百に達する幼稚園の中大阪市立のものは勿論大阪市の教育方針によつて體育本位、保健中心を目標として幼兒保育に邁進してゐるものであるが其の他の私立幼稚園の殆んゞ凡ては大阪市立幼稚園の方針に共鳴して市の研究會、講習會、練習會などには多數の保姆が参加してゐる。そして此の外大阪市長を會長とする大阪市保育會に入會若しは加盟してゐる。大阪市保育會は關西保育聯合會の一團體として名古屋市、京都市、神戸市、岡山市、堺市等と聯合し毎年一回各市巡番に大會を開催して保育に關する協議、研究發表、遊戲の交換をする外に其の機關雜誌として毎年一回以上關西聯合保育會誌を發行することを大阪市保育會が委任されて居る。

(三) 大阪市の幼稚園分布

現在大阪市の幼稚園は概して市の中央部に多く集中してゐるものが多い。

言ひ換へるに何れの大都市にでも見られるやうに新しく

市に編入せられた新市方面には其分布が少ない。これは要するに新市方面に於ては小學校兒童の收容に忙はしくて、幼稚園の設置を考へる餘裕のないこと、中央部の舊市部内では早くから小學校に幼稚園を竝設してゐて永い間に園舎の改善修築に努め設置の完全を圖つたのである。その結果往々小學校舎以外で獨立の園舎を設けてゐるものが少なくない。しかも將來市の幼稚園の増加は、毎年小學校兒童急激の増加によつて小學校増設の急に追はれてゐる間は特別な理由によつて設備の寄附がある場合の外は増園の見込は少い。見てよいと思ふ。此の結果勢ひ新市内には私立の幼稚園の設置を企劃するものが多く表はれて、毎年私立幼稚園の多數が本市の新市方面に開設されつゝある狀況である。

(四) 大阪市の幼稚園に於ける

保育方針

大阪市は小學校教育・中等教育を通じて市の標示する三大教育方針を最も良く尊重してゐる。従つて大阪市の幼稚園に於ても此の三大教育方針を基礎にして幼稚園經營の根本方針としてゐる。茲に云ふ本市の三大方針を稱するものは

第一、體育の重視、第二、教育の實際化、第三、公民教育の尊重の三つである。そして幼稚園に於ては此の三者の中でも最近特に「體育重視」を最も強調して本市保育の中心點を明かに全市の幼稚園經營上に注意せしめ且努力せしめるために「健康第一」「保健本位の保育」を云つたことを保母全員の胸に強く印象せしめて、幼兒の教養の全部を保健並に健康増進を目標として考慮せしめてゐる。従つて幼兒の遊戲は行き過ぎた興味本位から正しい運動重視への考慮に努めると共に、特に大阪市の環境に鑑みて日光、新鮮なる空氣、必要な安眠、郊外への進出等については保育上には勿論家庭教育に於ても出來得る限り其の機會を多からしめることに努めてゐる。依つて當時郊外電鐵を利用しての校外進出は勿論家庭に於ける兒童榮養改善については最善の努力を傾けてゐる。昭和八年十月十五日から一週間大阪市内に於て計劃實施した兒童健康兒週間の行事は此の意味に於て頗る有益なる結果を獲たと思ふ。

(五) 最近本市保育會の事業

本市保育會は、大阪市保育界振興獎勵の趣旨によつて、

昭和六年から體育本位から見たそして堅實な行進遊戯の講習會を開催して長期に渉る全職員の講習を行つた。此の外或は保育會調査部を設けて幼稚園保育の研究に従事し、又自治的に幼稚園保育の實地研究會を各區に開催してゐる。最近に本市保育會調査部の手によつて公刊せられた童話集、行進曲及び唱歌集、ヒル氏保育參考書の翻譯、幼稚園叢書の發刊なきを試みた。かくして此の兩三年間には割合に本市保育會が公私幼稚園、托兒所なきのために貢献した事等は少くない。

斯やうに本市は本市教育の大方針を基にして本市保育會を通じ各區の保育會の統制連絡に努めよく本市の第一方針とする保健本位の保育の徹底に注意するに共に、各區に於てよく自治的、協同的に保育の研究の振興を圖つて來た。特に昭和八年から全市幼稚園の主任保母を集めて各幼稚園の經營方針についてお互の研究を發表し郷土教育、公民教育なきについても有益なる研究の公表があつた。此の外、幼兒の談話、觀察なきについて毎月各自の研究を體驗しに關する發表會を開催してゐる。昭和九年に於ける本市保育

會は更に一段の躍進をつけたと思ふが平凡な保健第一の保育方針については更に此れが實行を促し、ますます健康第一主義による保育方針の深刻なる徹底を期したいと思ふ。

(六)本市幼稚園に於ける今後の研究

都市に於ける保育事業は、既に述べたやうに公立幼稚園の外にも社會施設として設けられてゐる。托兒所、保育所なきの數は漸次増加し其の兒童收容數は公立幼稚園の兒童數よりも増加する傾向がある。

此の形勢は要するに現代社會の要求を反映したものであつて、舊來の幼稚園よりも更に簡易であり、經濟的であり、そして自由なものでしかも幼兒の保育托兒を希望するこゝを證明してゐる。

殊に大正十五年文部省訓令によるこゝ、

我が國に於ける幼稚園の事業が社會の狀態に鑑みて一層其の施設を改善するの必要であることを述べて、

「父母共ニ勞働ニ従事シ子女ニ對シテ家庭教育ヲ行フコト困難ナル者ノ多數居住セル地域ニアリテハ今後幼稚園

ノ普及發達センコトヲ期セザルベカラズ、隨ツテ其ノ保育時間ノ如キハ早朝ヨリ夕刻ニ及ブモ亦可ナリト認ム」
ミ示してゐる。

斯やうな點については現代の大都市設立の幼稚園ミ雖もまだ十二分の考慮をしてゐるミは考へられない。私共は幼稚園保育問題ミして將來大に改善すべき問題を一面に於て研究努力するミ共に、亦他面に於て現下の社會狀勢に適應してよく市民の希望を容れ保育時間の延長問題、家庭教育ミの連絡問題、幼稚園經營の地方化實際化問題については今後大に努力考究しなければならぬと思ふ。(二月十四日)



○本月號は、「宗教と幼児教育」と銘打つて、多數宗教家の方々の御意見を伺ふ計畫をたてたのでございましたが、三月と云ふものはどちらも年度變りやら行事やらで忙中の忙。遂に鈴木、岩村兩氏の玉稿がいたゞけたのみでした。折角意氣込んだだけに、落膽も一入。併し兩氏の熱のある所説は私共をして、それ〴〵の宗教と幼児教育との關係を了解せしめて下さるのに充分だと信じてゐます。

○折角「讀者より」と云ふ欄を設けて、讀者諸氏の御寄稿をお待ちして居りましたのに、早やもうこの欄は恥ぢをかきそうです。どうぞどしどし御投稿下さい。皆さんあんまりひつそりしていらつしやり過ぎますよ。論説でなくばいけないと云ふことはありません。日誌でなくては、と云ふことも無論ありません。實際の材料でも、子供についての觀察等でも、その他何でも實際家の皆様、吾が子を持つるお母様の前に、そういふ事が澤山ぶらついて居るではございませんか。

幼児の服装について (3)

東京女子高等師範學校教授

成 田 順

前二月號には幼児服の胴及び袖の原型について記しましたが、今回は衿ぐりの形・衿の裁方について説明致します。

衿ぐりの大きさ三形

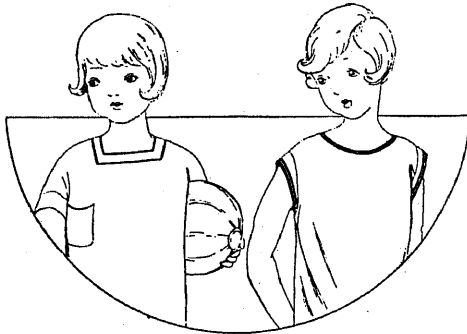
前號四九頁注意の所で衿ぐりの大きさを適當に斟酌する様述べましたが、これは用ひる季節によつて又衿ぐりの形・



衿の形によつて
大きさに形を
變へてまゐりま
す。

形の上からは
普通圓型の外に
V型・角型・ポー
ト型等がありま

ポ ー ト 型



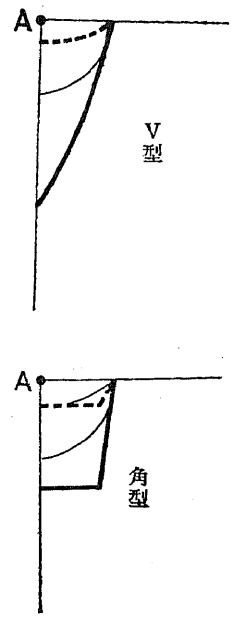
す。

V型

後は原型のま
まこし前は圖の
やうに下の方へ
くり下げます。
多くても胸圍線
より下らぬやう
にします。

角型

前衿ぐり横へ
は原型通りの大
きさにし、縦へば原型より二センチ内外下げ、下の方が七
耗乃至一程狭くなるやうにあります。



ボート型

前後とも縦は原型のままとして横に二種内外大きくくり

ます。時には前の方だけ一糎程くり下げてもよいと思ひます。

ボート型

何れにしても左右を考へて形よく裁つこみが大切であります。衿ぐりの形は顔の形によつて考へねばならぬが、幼児用としては圓型が最も普通であり之が可愛らしい

と思ひます。

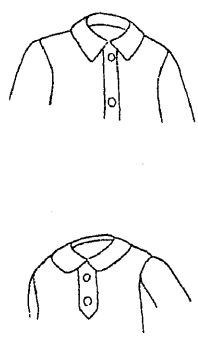
V型は幾分大人らしい感じが致します。なほ特別に後、

又は前をあけないで着たり脱いだりする場合には頭が入る

だけにあける必要があります。小さい子供は割に頭が大きいから、澤山あけなければなりません。衿ぐりをあまりに多くあけることは子供には見苦しいから、矢張り後か前或は肩をあけるのがよいと思ひます。

衿

子供は割合に頸が短いから衿をつけないこさも往々あります。殊に夏物には衿をつけないで衿ぐりを少し大きい目にあけたのが衛生上よいかと思ひます。冬物にしても上に毛絲編のスウェーターを着せるならば下のブラウス或はドレスには衿を附けないのがよいやうです。もし衿をつけるならば其衿は後の方がなるべく立たないで衿附の際から折返るのがよいと思ひます。圖に示すやうに圓型の衿は至つて



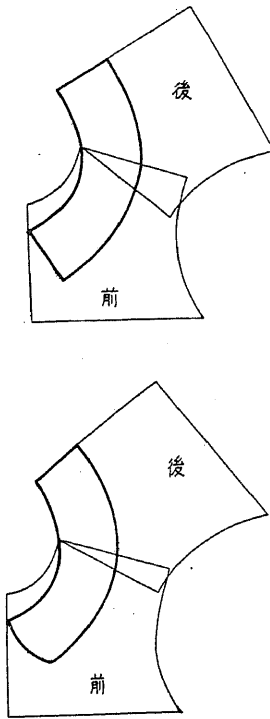
平凡ではあるがこれが最も子供らしくて誰にでもよい形です。

衿を裁つ前に先づ

衿の形によつて身頃の衿ぐりを定めます。前の衿ぐりは原

型より二纏内外下げます。

圓型の衿を裁つには次の圖解のやうに袖附の方で前後の肩を重ね、衿附の方は突合せにしておいて衿幅を適宜に定め衿の型を取ります。衿幅は普通五纏から七纏に致しますが後の方を広くしても前の方を広くしても或は衿の先を角たてても、まるくしてもそれは隨意です。



肩先の方を澤山重ねれば衿の周圍が短くなるから後が立つやうになりますが小さい子供の衿はなるべく附け際から折返るやうにしたいのであります。しかし肩の重ねが少な過ぎるま衿の周圍が長くなつてもち上るやうになります。

幼児服の特徴

一月號にも概略は記しておきましたがなほ今少し具體的

に申しませう。幼児服は幼児の身體を保護するのみでなく幼児の生活から考へるま一時もぢつして居られないのですから動作の妨げにならぬ服装でありたいのです。即ち此點から考へるま地質は伸縮の比較的自由な物が適當であります。毛絲編の物、メリヤス、チャーターの如きは此の特徴をもつてゐる良好な物であります。

形としてはなるべく單純なもので殊に不斷着なごはあまり裝飾を施さず動作に便利なやうに考へてほしいのであります。それ故洋服の丈も比較的短く丁度身長約 $1\frac{1}{2}$ 乃至 $5\frac{5}{10}$ 位即ち膝のあたりまでを限度に致します。しかし子供の成長は著しいものでありますから一年も立てばすぐ短くなり時には何の手入もしないで長く着せる爲に或は作法上衛生上如何はしく思はれる事もあるのであります。

又子供服としては比較的幅のゆつくりしたのが可愛らしくもあり動作にも便利であるがあまり度がすぎたは袋を着たやうに見苦しいのであります。又スカートの裾の幅は適

當に廣くなければ運動動作に不便であります。さりさてあまり廣すぎるとは布が不經濟でもあるし、又布地によつては可なり重さを感じるのであります。

袖はキモノスリーブにしてもラグランスリーブにしても或は別袖にしても自由であります。常に子供の生活から考へて動作に便利なやう袖山も不斷着ならば高きに過ぎないやうに注意すべきであります。

襟についても婦人服のやうに變つたもの變つたもの考へる必要はありません。前にも申しましたやうに平凡ではあるが圓型の襟が子供物には最も似合はしいものであります。又比較的頸が短いのであるから後の方が立つて居ては工合が悪いのであります。

又子供は服装に頓着なく遊びに夢中になりよく汚すものでありますから始終洗濯をして糊をつけるものはつけてアイロンをかけ常に清潔に保つべきであります。

之を要するに子供の服装は子供の生活それ自體から考へて地質を選び形を考案し裁縫し整理手入をしてほしいのであります。

本誌二月號所載、及川氏の人形花子さんの、おへべミお羽織の印刷も出來て居ります。ラシャ紙のクリーム色の地です。着物一枚ぶり、羽織一枚ぶり各一錢五厘でございます。

○申込所 東京市小石川區大塚町三五

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
日本幼稚園協會

○五十枚以上

○代金前拂のこゝ

猶ほ、人形花子さんの型紙も追加印刷が出來て居ります。之は百枚(五〇人前)以上お申込みのこと、代金前拂のこと、一人前二錢のこと等前號掲載の通り、

直き心

大塚 喜一

幼児に接して最も純なる「心の保育」が行はれる第一義の資質は、保育者その人の「直き心」である。

「直き心」はすなほなる心である。相手をありのままに受入れる心である。一點の我を混ぜず、利己心や便宜や結果や是等の不純なるに、ごりに染まぬ本心を以て、幼児の現状のすべてをそのままに受入れる「純」なる心である。

如何に憂ふべき心の傾向にある子も、その心もちをそのまますなほに受入れる事によつて「直き心」に歸り得るのである。誘導も感化も更生も、先づ保育者の心が子供の心に從つて俱に動く事によつて子供の心がいたはれ和らげ

られはぐくまれ、やがて保育者の親心にすなほなる信頼を以て生育せしめられて行くのである。

願はくば幼児の純なる心により、我等の内に「直き心」が育成せられむことを。

愛兒の幼稚園生活

— 親の記録 —

「皆さんごいふ」心持

一、お友達

幼兒は家庭の帝王であります。泣く兒ミ地頭には勝たれぬ昔から言はれてゐる様に、家庭に於ける幼兒の生活は、幼兒なるが故にこいふ割引感から、大抵の我儘を許してゐる家庭が多い様です。殊に一人子の家庭や、愛兒を失つた後の家庭、さては富有な、そして無自覺な家庭に多く見受けられます。ミころが家庭でも五人も七人もの子供のあるミころでは、自然此の傾向が除かれて、知らず／＼共同生活、他人に對する我儘のコントロールが出来てゐる様にはれません。此の意味は、幼兒が家庭から一步外に出て、近所の子供ミ遊ぶ様になるミだん／＼除去されて行く様で

す。これはお友達は他人であるこいふ意識から必然的に起つて來る遠慮ミ、我儘者は子供ながらも他のお友達から擯斥されるこゝに氣がつくからでせう。だから家の中ばかりで家の者のみを相手に遊ばせるこゝは、一面に利益があるミ共に、他面ではかうした損失がありはしまいかと思ひます。

幼稚園に入るミ、此の交友關係が極めて緊密複雑なるこゝは言ふまでもありません。組織された團體の中に、統制ある生活を送るのでから、決して我儘が許されません。勿論それも程度問題ミ思ひますが、家庭よりも、また近所のお友達ミの遊びよりも、常に整理された團體生活を送る

志 波 末 吉

こゝは明らかな事實でせう。此處に子供の生活としての一大機轉があり、人間としての生長發展の一段階がある様に思ひます。この機轉に最も強く作用するものは、幼稚園の組織體である先生とお友達です。かくして先生の影響感化は言ふまでもないことですが、お友達から受ける影響も、お友達に及ぼす影響も互に取り且つ與へる社會生活上の根本原則に立つて、成人の社會生活關係と同様の意味を充實實現して行く様であります。此處にお友達の眞の意味があるのではありますまいか。

二、遊 び

此のお友達としての關係交渉は、遊びの際に最もよく發揮されます。幼稚園であつても、先生を中心としてお話を聞いたり、一しよに竝んでお指圖を受けたりするときは、主として個々の幼兒と先生との關係が主として働いて、園兒相互の關係影響は稀薄である様です。されば眞に社會的な成長を遂げる機會は、主としてお互におもしろく遊ぶ間に見出されるのではありますまいか。しかしその遊びが一つの統制された環境の中に、正しき指導者の自然的なる輔

導の下に行はれる時、最もよき結果を齎すことは言ふまでもないことです。ですからある宗教的儀式風の訓育や、先生中心の命令禁止の躰では、外形的に如何に整つても、眞に此のよき結果を望むことはむづかしいと思ひます。

かう考へるこゝ、ほんとうにおもしろく、しかも統制された組織の中で、お友達相互に自由に遊ばせ、その中に常に人間生長の社會的・個人的意義を充實させて下さる幼稚園こそ眞にありがたいものです。おもしろい唱歌を歌はせるこゝ、愉快な動作遊戯を楽しませるこゝ、圖畫を書かせるこゝ、手工を指導するこゝなどは、何れもたゞ一人の幼兒を相手に充分出来るこゝです。そして個性に應じた教育を施すこゝは、ある程度まで實現されませう。しかしそれは眞に人となるこゝは出来ない様です。さうしても社會共同體の一員としての訓練が必要です。それは家庭でも、近所の子供との遊びでも充分に出来るものではありません。此處に私どもは幼稚園でなければ求められぬ貴い生活内容があるこゝを、しみじみ感謝いたします。

三、皆さん

かうした観察の下に、私どもの子供が女高師附屬幼稚園にお邪魔する様になつてから、如何に發展成長するかに氣をつけてゐます。極めて好ましくよろこばしいものばかりです。

○私のものには、よくしるしをつけて置いて下さいね。さうしない。皆さんのご分らなくなつてこまります。

○いやな言葉を使ふ。皆さんに笑はれます。

○御飯のとき、お行儀が悪い。皆さんがお笑ひになります。

○一人でわい／＼やる。皆さんがおこまりになります。

○皆さん。一しよに遊べるから、幼稚園は大へんおもしろい。

○何でも皆さん。一しよにしなければ、皆さんが遊んで下さいません。

なごはほんの一二例ですが、幼稚園に通ふ様になつてから度々聞くことです。此處には先生の嚴格さから来る。

○行儀よくおべんたうを頂かない。先生に叱られます。

○先生から叱られるから、お行儀よくしなければなりません。

せん。

なごの心持が少しもありません。先生はなつかしいもの、親しいもの、私どもを可愛がつて下さるもの。いふ心持で一杯です。そして望ましい訓育はお友達相互の力によつて、何等の強制感もなく、又何等の窮屈感もなく、極めて自然に、日々の生活が統制發展しつゝあります。此の心持は眞に道徳的自覺に基くものではないでせう。しかし幼児がお友達との關係に立つて、自ら生活を反省して行く。ころに、社會生活を基礎として發展する多くの道徳心や道徳的習慣や、作法の根據がある様に思はれます。これによつて家庭で馴染された我儘は、極めて自然に見事に除去されて行きます。個性を伸ばすことも、天才を發揮させることも、すべては此の社會共同體の構成メンバーとしての意味を完全に體現しての上でなければ、全然意味をなしません。極めて簡單ではありますが、かうします。此處には先生の影響多くは見受けられぬ。こゝになります。しかしこれは先生のありがたさがあまりに廣大である。こゝに起因するもので、先生が直接の對象となる場合は、およそその差が

されほどのものかはかり知ることが出来ません。充分に用意された環境、見事に統整された保育の組織、日常の不斷の周到なる保育活動等によつて総合的に求められた極めて貴い成果があると思ひます。我々の簡単な家庭生活に於ても、直接に叱り飛ばして躰をすることは、最も手近で容易であります、全く叱らず父も母も表面に立たずに、見事な躰をなすことが、幾十倍困難であるかは、はつきり想像することが出来ます。

感謝の二年間

四十郎もお蔭でこの春は幼稚園を出て、小學校に通ふことになりました。何よりも嬉しく、先生方に御禮を申し上げたいのは、二年間たゞの一度も病氣をせず、小學校の入學試験を受ける時にも威勢よく試験醫官の前に出られたことです。丈夫に育つていろいろ怒も出ますが、誰も同じやうに子供については、學校の成績が善くても悪くても、身體

* * * * *

明日の幼稚園を楽しんで寝につき、朝起きては幼稚園に行く支度をいそぐに進め、夕食の貧しき膳にも、今日の幼稚園のおもしろかりし物語に一同打興じます。この中にすく／＼正しく伸び行く幼児を見るべき、眞に生甲斐を感じると共に、此のよろこびを與へ給ふ我が幼稚園に満腔の感謝を捧げずにはゐられません。

緒方こころ子

の丈夫なこころが何よりです。殊に、私の宅では長男が非常に弱くて、幼稚園にも通ひ得ず、次男も長女もそれ／＼病氣では苦い経験を有つて居りますので、健康で元氣で發育期の二年間を過したこころに、言葉にいひ盡せぬ感謝を有つて居ります。よく亡くなつた父が、子供の健康な時が人生一番仕合の時だを申し居りましたが、子供を育て、見て

今さら父の述懐を思ひ起します。

私共では、學校の効能は學問より友達を得るこゝだこゝ主人が申します。先生の前でこんなこゝを申上るのは失禮かも知れませんが、人間は結局素質が七八分で、教育で素質を改め得るのは眞こゝに僅かのやうな氣が、自分自身の經驗から致すのであります。しかしその素質をすく／＼伸すこゝろに、又教育の大きな効果があり、それだけでも却々容易なこゝでないやうに考へます。その點からはい、幼稚園に入れ、いゝお友達の間を生長して、知らず知らず感化を受けるこゝが何より大切のやうに、素人ながら考へるのです。主人が學校の効果はいゝ友達を得るこゝを申すのは、幼稚園でも一つの子供の社會として、違ひの有りやうはありません。そこで長男や次男の場合には流儀を變へて、四十郎の場合お茶の水にお願ひしたのが、今より考へて何よりの仕合でした。二年間たゞの一度も病氣をしなかつたは學校の設備がいゝ結果も勿論ですが、お友達のよかつたこゝも主なる原因だつたのではないかこゝ、こんなこゝも考へるのです。

願つた通りに四十郎は幼稚園が好きになりました。この自分の周圍を愛する心持が、今後小學校に進んでからも、大きくなつて世の中に出てからも、一番大事な心持だこゝ思つて居ります。四十郎は獨りボツチが好きの少し變つた性質の子で、初めは幼稚園に行くのもあまり好きでなく、行つてもお友達を馴染みにくいやうな風でしたが、先生のお引廻しで、だん／＼幼稚園やお友達が好きになり、殊に卒業實際の半歳ばかりは、面白くて面白くてたまらぬこゝいふ風があり／＼見えてゐました。あまり幼稚園であつたこゝを歸つてお話せぬ質でしたが、それでも幼稚園に通ふ嬉しさを樂しさが目に見えました。

如何に四十郎が幼稚園生活を樂しんでゐたかについて、こんなこゝが有つたのです。私共では四十郎の小學校につきいろ／＼考へた結果大塚の高師附屬成蹊を受験させるこゝにしました。大塚の試験が先きで受験の結果幸ひに許可になりました。するこゝ四十郎はもう大塚へ這入れたからいゝ、成蹊の試験を受けるのは厭だこゝ申すのです。しかし宅から通學の便宜高等學校への聯絡を考へるこゝ、若

し出来れば成蹊に入りたい、出来ぬまでも試験だけは受けさせよう——多少親の道樂氣も手傳つて——無理に成蹊を受けさせたのです。ところが幸か不幸か成蹊も許可になつたのです。するに肝腎の四十郎は表立つて成蹊に反對もしませぬが、何にしても大塚を斷念しないのです。成蹊の話をするに厭な顔さへします。本來が少しつむじ曲りで、言ひ出すになか／＼聽入れぬ質なので、已むを得なければ先生から御説得を願はう、當分はむしろ勧めまいと暫らく問題に

觸れずに置きますと、ある日のことです。急に僕はもう小學生になるのだから赤ン坊の玩具はみなきぬ(女中の名の弟に遣つて仕舞はうと、自分の戸棚を片付け、可愛がつてゐた犬の玩具を取り出して、これはなか(女中の名)にやるのだから今日はお別れに一晩一緒に寝るのだといつて、むく犬を抱いて寢ました。妙なことをいふと思つてゐたら、この

母の言葉

哲彦を幼稚園に通はせ始めてからもう二年といふ年月が

前後、大塚を斷念して成蹊に行く決心をしたらしいのです。それからは成蹊にも申しませぬが、大塚々々頑張らぬやうになりました。その時はそんなに迄楽しんでゐた大塚に別れさせるのかと、少し可愛想な氣がしました。

二年間お世話になつて、振り返つて考へますと、薦の子は薦にしても、朗かに伸び／＼と生長し、殊に病氣一つしなかつたのは何といふ仕合か、感謝の念で一杯です。幼稚園は子供の智慧を附けるころといふより、健康に朗かに子供を育て、戴くころと豫てから考へて居るのです。智慧は抛ついても附くが、健康に朗かに育てることは、私共の少い経験から申しても、決して容易のことではありません。それが豫期以上丈夫にしていたゞき、今幼稚園にお別れするに當り、さちらの小學校にしようかなと贅澤を申して居るのであります。こんな仕合が又ありませうか。

西川 ぎよ子

經たうして居ります。二年と云へば長い様で短い年月で

でございます。此の短いけれど貴重な二年間の幼稚園の生活、この生活に依つて、哲彦は種々教へられました。獨り哲彦のみでなく、親もして、殊に母親もしていろいろ教へられた二年間でございます。如何なる事を、如何なる段階を経て教へられ、又それが如何なる事に役立つかといふ事を總て今知り盡す事は出来ません。「かういふ事は幼稚園のお蔭だ。幼稚園で養はれて来たからこそかういふ場合にかうするこゝが出来たのだ。」と、これから先學校生活に於ても又つづき先へ行つてからも母親が、又自分が思ふ事は數々あるでございませう、けれど今はさういふ事を測り知る事は出来ません。しかしそれは別として、現在ほんの目の前に見える事だけを考へても深く幼稚園の御恩といふ事を感じます。次にほんの少しながら現在の哲彦を觀て、感じた事を書かせて戴きます。

第一には健康になつた事でございます。親も兄弟も一體に健康に恵まれて居り、哲彦も世間でいふ虚弱兒ではございませんでしたが、外の兄弟と較べてみた時はいくらか神經質でちよいと病氣もし、決して死ぬか生きるかといふ

大病ではございませぬ。外の兄弟にはなかつた引きつけるといふ事もございました。けれど幼稚園に通ふやうになつてからは、毎日の生活が規則正しくなつたので身體がすつミ丈夫になり、今までひよろ／＼と瘦せて居たのが、肉も附いて来て、がつしり／＼と參りました。そして此頃では殆んど、病氣らしい病氣は勿論、ちよつとした風邪さへも引かず、大抵の人が罹つた今度の流行性感冒にも罹りませんでした。

又身體の丈夫になつた事につれて元氣が一層出て来て、時には元氣過ぎると思はれる位、元氣ある子供になりました。

この規則正しく生活するといふ事は營に身體の上ばかりでなく、又、心の上にも大きな結果を齎してゐるを考へられます。

次には子供として、その年頃の子供として相應しい常識が圓滿に發達した事でございます。哲彦は小さい時からちよつと風變りな子供でした。云はゞませた子供でございました。これは上に大きな兄弟が多いといふ事も影響して居

るかも知れませんが、さういふハンドキャップを除いてもなほ普通その年頃の子供としてほませてゐた様に思はれます。ませてゐるミ一口に云つても、いろ／＼のませ方もあつてせうが、哲彦の場合は例へば親ミか、又兄弟達が話をしてゐる。その話は子供が聞いても別段分りさうもない、従つて面白くもないと思はれる(實際さういふ場合外の子供がゐてもその子供はすぐ向ふへ行つてしまひますが)、話を分るのだから、分らないのだから、こちらには見當が付かない様な話を熱心に聞いて居たりしました。今考へて見るミ話が面白いので聞いたのではなく、話を聞いてゐるミいふ事が好きであつたのかも知れません。

又何からさうして覺えたのだから、その場合聞かれた者がびつくりする様な難しい事を云つたり、又質問したりするかと思ふミ、案外な事に丸つきり、知識がなかつたり云つた風な子供でございました。しかし幼稚園に行く様になつてからはかういふ點が兩方から歩みより、平均されました。つまりその年頃の子供としての常識が發達して參りました。けれど、やはり幼稚園へ通ふやうになつてもはじめのう

ちは、なんだか分別臭い顔をして外の子供達が遊戯をしてゐるのに、一人ぼつんミ腰かけて、それを見てゐたりした事もございました。後で「さうして今日皆さんミ一緒にしなかつたの」ミきいて見ましたら、あれはあんまり赤ん坊くさい(適當な言葉ではございませんが、つまり幼稚に見えたミいふ意味でございませう)からしなかつたミいふ様な事を申して居ります。けれど今日ではもうかういふ事はすつかり無くなつた様でございませう。これには種々な事が原因してゐるミ思ひますが、家庭に居る時ミは異つて、幼稚園では自分ミ同年の子供の間で、共に半日の生活をするのでございませうから、自分一人でぼつんミしてゐるわけには行かすいろ／＼の點でませた所なきがだん／＼ミ無くなつて、子供らしい子供ミなるのでございませう。この同年の子供ミ共に生活するミいふこゝは子供にミつて、本當に必要な事ミ思ひます。よく世間には幼稚園へやる必要はない。幼稚園で教へる事ぐらい家庭で充分教へる事が出来るではないかミいふ人がございませうけれど、決してさうだミは思はれません。世間には毎日、毎時、子供につきつきりて居られる

親ばかりはないし、(最もこの事がいゝ事さも云はれませんが。)又さういふ親が又、兄弟なりがあつたにしても、さう

いふ人は幼児から見れば全くの大人であるしさういふ人が子供の相手をして、それは全く指導者の立場だけに立つて居るのでございますから、さうしても、よつぼぎその事の方に氣をつかはなければ、さうしても片よつた教育しか出来ないのではないでせうか。勿論中には指導者の立場のみではなく、子供の友達としての立場にも立ち得る人もございますでせうけれど、(さういふ人こそ眞に立派な教育家でございますが、)さういふ人は滅多にないのではないでせうか。たゞ、頭の中には、さういふ考へは持つてゐても、それを實際行へる人は極く少數なのではないでせうか。私にはかう思はれるのでございます。しかし、幼稚園では、その友達になり得る指導者も、又ほんさうの友達も居りません。自分自身(子供が)と同じ様に考へ、興味を覚え、喜び、或る時に分らずやをいふ、精神的にも、肉體的にも殆んど等しい友達が。かういふ條件を備へてゐる幼稚園で、さうかするにその條件の殆んど半分が、否それ以上の缺け勝ち

な家庭を比較して考へる時には、さうしても、出来る事なら幼稚園へ通はせた方がよいと思ひます。

又そんな理窟張つて考へなくとも子供は、同年輩の子供と共に遊ぶ事をそんなに喜ぶかといふ一事を考へたゞけでも、大人ばかりの家庭に置くより、子供の大勢居る外へ、(理想は幼稚園)出した方がいゝと思ひます。子供の喜ぶ事には何かしらよい事が含まれてゐるのですから、又同年輩の子供と共に生活するといふ事は前に申述べた事の外にも、種々大きな事を齎して居ります。細かく考へて見れば實に澤山でございますけれど、その二、三をつまんで見れば先づ反省する心が起り、その例を手近に求められるといふ事でございます。つまり、幼稚園の友達には、自分と比較して、ずば抜けて勝れた子供も居ないし、又特別分らずやの子供も居りませんつまり、勝れた點を持つてゐる子供があるにしてもその勝れた所は、自分には(子供が)及びもつかない、想像もつかない高いところにあるのではなく、自分も努力すれば行き着く事が出来るといふ程度だし、又それと反對の悪い所も、自分も、ひよつとさうするにさうなる可

能性を多分に持つてゐるこいふ程度でございます。かういふ事は誰さんがしたけれどそれはいゝ事だから自分もしやう、かういふ事は悪い事だから自分はしない様にしやう、すぐ、自分に引き較べて反省する事が出来ると思はれます。

又同年輩の子供と團體生活をするのですから、自分のしたい事ばかりも出来ません、多少なりとも我儘を抑へなければなりません、つまり我儘がなほる事になります。

以上の様に同年輩の子供と共に生活するこいふ事は、本當に意味のある大切な事だと思ひます。そして幼稚園の特長の大部分はこの中に含まれてゐるを考へられます。

さて、今度は別な立場から考へて見ます、親としての

雑感

數多い女兒をもちながら誠に運あしく、お茶水の學園には、これまで遂に御縁がございませんでした。せめて最後

立場からは親馬鹿、井の中の蛙の例に洩れず、幼稚園へ上げる前までは、自分の子供が總ての點で外の子供より勝れてゐるを考へて居りましたが、大勢の中に出して見て、他の子供と比較して、はじめて外の子供の勝れた點、自分の子供の勝れた點なきが分り、自分の子供の位置(その年頃の)子供として勝れてゐるか普通だまかいふ程度がはつきりして、なほ一層親として心掛けなければならぬこいふ事が分ります。以上の如く、哲彦の幼稚園生活に依つて、哲彦が又哲彦を通じて母親が、如何に教へられたかこいふ事を考へるに今更ながら、幼稚園の御骨折の大きい事を思ひ深く感謝いたして居る次第でございます。

一 幼兒の母

の一人でも、きうかしてこの系統的に一貫した女子教育を受けさせたいものとの、兩親の切なる望をもつて、昨年

春女子高等師範學校附屬幼稚園を志願致させました。「第二部入園許可」の御通知を受取りました時は、積年の念願が最後に叶つた嬉しさありがたさで、當の子供よりも、むしろ両親の胸は眞にいつばいでございました。

かねて切望してゐました第一部にはつれたこは、系統的にさいふ點については、大半の望を失つたわけでございますが、そんなこなき露ほきも知らぬ子供は、やがて喜び勇んで登園致しました。

「世界」だに稱せられてゐるだけに、帝都の學校街としての理想の地で、あたりの眺め亦實に美しく、日當りさひひ、内外の完全な設備さひひ、ほんたうに氣持のよい幼稚園でございます。

お玄關を入るに、まづニコ／＼顔の倉橋をぢさんをはじめとして、晴れ々々としたお顔の多くの先生方から、給仕さん・小使さんに至るまで、みなニコ／＼して毎日迎へて下さいます。この多くの先生方は、全部倉橋をぢさんのお弟子ばかりさ伺ひ、さてこそあの暖いお心持、なごやかな空氣が、すみ／＼までもみなぎりあふれ、たこへやうの無

い融和の美しさ尊さがこ、一しほ深く感ぜられました。

このなごやかな一大樂園で、一人々々があたゝかい先生方のお手にいだかれ、親しい多くのお友達さ、さも嬉しうに、眞の幼兒の生活を樂しんでゐる吾が子の姿を見出しました時、或は嬉々として遊ぶ雛鳥の様に、或は又スク／＼と思ふがまゝに伸びて行く、春の若草の様な氣が致しまして、われながらうつりこ、このうるはしい状態に見られて、吾が子の幸福を感謝するの實感を味はせていたゞいて居ります。

夢のやうに一年はたちました。この間に極めてせまい範圍ながら、吾が子を通してながめましたつまらぬ感想を、思ひつきましたまゝ左に二つ三つ。

一、眞のお友達

一番末子で、すぐ上の姉さでも年齢の差がかなりひびく、近所にも適當なお友達が殆んど無いさいふ、淋しい境遇に育ちました關係上、幼稚園に通ふやうになりました、まづ子供を著しく動かししましたこは、何と申しましたも、同年輩のお友達を得た喜びだつたさ思ひます。入園前は友

なきこころを、ふびんに思ひ、出来るだけお友達になつたつもりでゐました親心も、これには遠く及ぶすべもなく、真に求めてゐましたものは、自然の友でございました、日々お友達のふえることが非常な喜びで、「今日は誰さん」、誰さんもお友達になつたのよ。「今日は大きい組の方もお友達になつて遊んだのよ。」「わたしのお友達もう随分あるの。三十人ぐらゐあるらしいの。」「茂子ねえさまのお友達いく人位あるの。」「こいふ様なほこりかな報告を、毎日のやうに聞かされました。

先生にほめられたさか、倉橋をぢさんとお話をしたさか、いふこころが、さても嬉しいらしく見えます。主事先生のこころを倉橋をぢさんお申して親しんでゐます。新年に「オメデタウ」。こいふ年始状をさしあげましたら、「クラハシラヂサンカラ」「こいふおはがきがまるり、あゝ倉橋をぢさんから喜んで、そのおはがきを家中のものに見せてまはりました。

登園がはじまつてから、子供の様子をじつと観てゐます。こ、實に不思議なほこ幼稚園は楽しいこころを見えます。

そのくせ幼稚園こいふ言葉はあまり口には致しませぬが、毎朝起きるこすく幼稚園の事を想像するらしく、眼をくりくりさせながら、支度を急ぎます。この頃から自尊心が手傳つて、「二人でお支度よ」。が自慢でございましたが、寒くなるこ一人ではいやさうに見えます。

ある時なき足を痛めて二三日歩けなくなりましたが、「お椅子に腰かけて、お友達のお遊びを見てゐるから、行きたい」。こ私を困らせたこもございました。

二、社交性のめざしにつれて

外部のお友達が少く、家庭ばかりで育ちました吾が子は、親の罪だこは思ひますが、随分内辨慶で、我が強く、神経質も多分に見えてゐました。

かつて倉橋先生より、入園の最初に母親への御注意として、「幼稚園は子供同志が、ちやうどお芋が洗はれてゐるやうに、お互にすれあつてみがゝれるこころだ。」「こいふお話がございましたが、一年たつた今日、吾が子の變り方を観て、この感じが如實に味はれます。

子供は善きにつけ、悪しきにつけ、種々の特徴を持つた

お友達に接して、廣い子供の世界を見せていたゞくこころを、むしろ不思議な眼で興味を持つと同時に、お互に洗はれてゐるお芋になりきつて、泣いたり、笑つたり、怒つたり、喜んだり、あらゆる幼児の社會生活を樂んでゐます。

おかげで今日は、神經質もだん／＼うすらぎ、誰こでも陽氣によく語るやうになり、時々とても面白くふざける餘裕さへ出來てまゐりました。お友達がお父様さいらつしやるのを見て、時々「お父様、いつしよに行きませうよ。」と父を誘ひますと、父親も折角の懇望もだしがたく、遂にお伴をしたこころもございました。それ以來こころに父親に親しみ、一所に凧あげに行つたり、書齋に入つて話し込んだりする様になりました。これ等は私の家庭に於きましては變つた現象でございます。

幼稚園で習つた遊戯や唱歌をうちのものに教へます。すぐ上の姉が面白く相手になるこころ、何度でもいたします。こんな時一番早く失格するものは私で、「お母様は調子はづれだから駄目よ。」としかられます。全く子供共調子を合せるこころはむづかしいものだこころ存じます。こんな有様で家庭が

全く幼稚園の延長ミ化し、父親までが仲間入りして、家内で樂しみます。

今までは家庭に於て「お友達にいちわるをしてはいけません。」とか、「あまりわからずやになつてはだめだ。」とか、消極的な方面に力を入れすぎました爲か、入園後はさうも遠慮ぶかく、生氣の無い状態に見えましたが、受持の先生の御注意をいたゞくと共に、家庭に於ける方針をたてかへました結果、大分効果が見えてまゐりましたが、この點はあこ一年の生活のうちにこころ、尙一層の期待をもつてゐます。

三、人間教育の基礎をめぐりに

入學難のさけび聲高い今日、上級學校への準備に子を持つ親のなやみは、みな同じく、吾が子の將來につき亦一抹の憂ひを消すわけにはまゐりませぬが、すべて現代の學校教育が、理智主義の迷路にすべり込んで、もがいてゐる際に、理想の旗を高くかゝげて、一人々々の特性を強く雄々しく育み伸ばして、身體、人間の基礎教育にこころ、全力を打込んでいたゞいてゐるのでございます。その保育法は實に自然的で、ちゃんこ系統的な腹案があまりになつても少しの

無理がございませぬ。メンタルテストの如きも、室内、運動場なき随所で個人々々につき、生活に織込んで行はれてゐるやうで、素人の私共にも實に胸のすつきりするやうな保育法に見えますが、又それだけに先生方の御苦心は非常なものと思はれます、この二年間を通じて、この融和の樂園に育つ幸福をしみじく感ずるに同時に、二部さいふ悲しさで、ずつこのまゝ生ひ立つこの出来ない場合を想ふ時は、一層お別れが悲しく思はれます。然し今後如何なる方面に向ひましても、この樂園で培はれた尊い芽生えは、無限の思ひ感謝の泉となつて、いさし兒の胸に常に湧きいつるこゝでございませう。

四、母親の教育に

毎日の送り迎へを重ねるにつれ、いさしき愛兒の母でありながら、眞の母、よき母となるこゝの至難さをつくづくと思ふ毎に、幼稚園の尊い使命の一として、母親の教育をも具體化していたゞきたいと存じます。愛兒が日々受けてゐる保育状態に接する毎に、子に教へらるゝ自己の姿を内省して、一層この感を深く致します。これやがて幼兒の幸

福を増進し、又保育の目的を助成すべき力となるものかも存じます。私は結婚期にある娘には、やがて來るべき時のために、保育の心得をもたせて置きたいとさへ思ふやうになりました。

五、お辨當はみな同じものに

幼稚園にまゐるやうになりまして、「お十時」の當然なくなつたことは、大へん結構に存じます。この時代は、身體方面の發育が特に盛んなわけですが、一面偏食の子供がかなり多いかも存じます。この時代の子供に適應する様榮養食の加味されたお辨當がみな一様にならべられて、談笑のうちにおいしくいたゞくこゝになります。偏食の弊も自然のうちに矯正されて、或はよい結果を得られませうかも存じます。然しこれは設備の上からも、先生方の御骨折の點からも、なか／＼困難の伴ふものでございませうが、もし實現された暁には、幼兒の幸福を一層増進させるこゝが出来るやうに存せられます。

童話 幸福の王子様

—— オスカア、ワイルド作 ——



津 田 芳 雄

市街マチの上に高く、高い圓柱の臺の上に、幸福の王子様の像が立つてゐました。像は全身に金が被せてあり、眼は青玉で出来てゐて、刀の柄ツカには大きな紅玉が光つてゐました。

この幸福の王子様は街中の非常な人氣者でした。一人の市會議員は王子様の像を見て、「風見カゼミのやうに綺麗な方だな」云つて、美術趣味があるさういふ評判を取りたいと思ひました。「唯風見程役に立たないだけだ」彼はまた、非實際的な人間だと思はれては困ると思つてさう附け加へました。事實この人はそんな非實際家ではありませんでした。

「それ！幸福の王子様を御覽。王子様は何も欲しいなんて泣いていらつしやらないでせう」一人のお母さんはかう云つて、お月様を欲しい云つて泣いてゐる子をなだめ

ました。

「世の中に本當に幸福な人が誰かゐるつてこゝは結構なこゝだ」一人の悲觀した人は、王子様の素晴らしい像を眺め乍ら申しました。

孤兒院の子供達はまた、紅い外套を着て、眞白い洗濯したての前掛をして、お寺から出て來た時、「天使様のやうね」王子様のこゝを申しました。

するゝ算術の先生が「さうしてそんなこゝがわかります？あなた達は天使様なんて見たこゝないでせう？」と申されました。

「だつて、夢で見たんですもの」子供達は答へました。するゝ算術の先生は顔をしかめて、怖い顔をなさいました。子供が夢を見るのはいけないと先生は思つていらつしやる

のでした。

或晩この市街マチに一羽の小さい燕が飛んで参りました。その燕のお友達はもう六週間前にエジプトの方へ飛んで行つてしまつてゐましたが、この燕だけは、美しい蘆アシを仲好しになつてゐたものですから、自分一人後に残つてゐたのでした。ところが、蘆は自分の家にはかりゐて遠足が出来ません。燕が「僕は旅行が好きだから一緒にお出でよ」と云つても、風にはかり御辭儀をして燕の云ふことを聽いて呉れませんでした。燕はお友達がゐなくなつて淋しくなつたのですから、僕、ピラミッドのある所へ行くよ。さようなら」と云つて飛んで來たのでした。

それから一日中飛んで、この市街に晩着いたのでした。そして「何處マチに泊らうか。市街の人達が用意してゐてくれるだらう」と申しました。それからこの圓柱の上の王子様の像を見附けて、「あそこに泊らう。新しい空氣が一杯あつて好い所だ」と云つて、幸福の王子様の丁度足の間の所に降りました。

「これは金の寢室だ」燕はあたりを見廻し乍ら申しまし

た。そして眠らうしましたが、丁度燕が首を羽の下に入れようとしてゐた時に、大きな水滴シヅクがポタリ落ちかかりました。「あれ、變だなー空には雲一つ無くて、お星様はあんなに輝いてゐるのに雨が降るなんて。ヨーロッパの北の方の天氣つて、こんなものか知らー蘆は雨が好きだつたけれど、蘆なんて、自分さへ好ければいゝんだ」燕はかう申しました。

それから又一つポタリ落ちました。「雨よけにならないやうだつたら像なんて用は無いや。煙突の笠でも探さう」かう云つて飛び立たうしましたが、羽も擴げきらないうち又ポタリ。そこで上を向きます何でせう。幸福の王子様の眼には一杯涙が溜つてゐて、金色の兩の頬を傳つてそれが流れ落ちてゐるのでした。月の光を浴びたそのお顔は大變綺麗でしたので、小さい燕はすつかりお可哀相に思つて、

「あなたはぎなたですか」

「私は幸福の王子です」

「ではさうしてお泣きになつてゐます？ 私はあなたの涙

でこんなに濡れましたよ」

するに幸福の王子様が仰有るのでした「僕がね、生きてゐて人間の心を持つてゐた時には涙なんて何のこもか解らなかつたの。僕はサン、スシの宮(氣樂の宮)に住んでゐたんだもの。そこはね、「悲しいこも」は這入れないこもになつてゐるんだよ。そしてお晝間は僕はお友達にお庭で遊んでゐたし、晩は大廣間のダンスに眞先に立つて踊つてゐたの、お庭の周りには大變高い塀があつたけれどね、僕は一度もその塀の向ふにあるものを尋ねる氣にならなかつたの、あたりに見えるものが何もかも美しいものばかりだつたんだもの。僕の家來達は僕のこもを幸福の王子様つて言つてゐたよ。そして本當に僕は幸福だつたの、若し楽しい遊びごもが幸福なのだつたら。さういふやうに僕は幸福に暮して、幸福に死んだ。そして僕が死んだこもいふので、こんな高い所に立たされて、この市街の醜いもの、悲しいこもが何もかも見えるやうになつたの。だもんで、僕の心臓は鉛で出来てゐるけれど泣かないでゐられないの」

「何だつてー固い金ぢやないか」燕は思ひましたが、流

石に大きい聲で惡口を云ふ程無作法なこもは致しませんでした。

王子様の像は尙も低い好い聲で申されました「ずつこ、ずつこ向ふの小さい路地にね、貧乏な家が一軒あるの。その家の窓が一つ開いてゐてね、女の人が一人机の前に腰掛けしてゐるのが見えるよ。その人の顔は瘠せてやつれてゐて、手は針に一杯刺されて、荒れて赤くなつてゐるの。その人は裁縫師なんだよ。今、皇后様附の女官の中で、一番綺麗なお方が、今度の舞踏會にお着になる繻子の上衣に、トケイ草の花模様を縫取りしてゐる所だよ。部屋の間つこのベットには小さい男の子が病氣で寝てゐるの。お熱があつて、蜜柑が欲しいつて云つてゐるの。お母さんは河の水より他にやるものがないもんで、その子が泣いてゐるんだよ。燕や、燕、小さい燕、お前、僕の刀の柄から紅玉を取りはづして、あのお母さんの所へ持つて行つてくれないか。僕は足が臺にくつゝゐてゐて、動けないんだから」

するに燕は申しました。「エチプトの方で私を待つてゐるんです。私の友達たちはナイルの河の上をあちこちに飛ん

でゐて、大きな蓮の花に話をしてゐます。やがて大王様の墓場に入つて眠るでせう。大王様もその彩りしたお棺の中に這入つていらつしやいます。大王様は黄ろい麻の布に包まれて、香料がかけられてゐます。お頸には薄緑の硬玉の鎖を掛けていらつしやいます。そしてお手は洞びた木の葉のやうになつてゐます」

王子様はまた「燕や燕、小さい燕、もう一晩だけ僕の所に泊つて呉れないか。そして僕の使をして呉れないか。あの子はとても喉が渴いてゐて、お母さんは本當に悲んでゐるんだ」から仰有いました。

するに燕は「私はさうも男の子は嫌ひなんです。この夏、私が河の上にゐました時、水車場のせがれなんです、腕白な小僧が二人程ゐて、いつも私に石を投げてゐました。勿論當つたことはありませんが。私達燕はそんなへまな飛び方は致しませんから。それに私は特別すばしこいので名高い家柄に生れたんですから。だけれき随分失敬ですな」を申しました。

けれきも、幸福の王子様が大幅悲しさうなお顔をなさい

ましたので、燕はお氣の毒になつてかう申しました。「こゝは随分寒い所ですな。だけれき、もう一晩だけ王子様の所に泊めて戴きます。そしてお使ひを致します」

王子様は「有難う、小さい燕や」を仰有いました。

そこで燕は王子様の刀の柄から紅玉を取りはづして、それを嘴にくはへて、町の屋根の上を飛んでゆきました。

燕は大きなお寺の塔の傍を通りました。そこには白い大理石の天使達が彫られてゐました。燕はまた宮殿の傍を通りました。そしてダンスの音を聞きました。そこへ美しいお嬢さんが露臺の上に出て来て、「いゝお星様だこゝろわたしの衣裳は官中舞踏會に間に合ふか知ら。トケイサウの縫取りを頼んで置いたんだけき、裁縫師がぐづくしてんだもの」を申しました。

燕は河の上を通りました。そして船の帆柱に燈火アカリがつるしてあるのを見ました。彼はまたユダヤ人街の上を過ぎました。そして年取つたユダヤ人達が取引をし合つて、銅の秤でお金を測り出してゐるのを見ました。それから漸く例の貧乏な家に着いて中を覗き込みました。するに男の子は

熱が高いので頻りにベットの所で寝返りを打つてゐました。そしてお母さんの方はすっかり疲れてしまつて、その側で眠り込んでゐました。そこへ燕はビョン／＼這入つて行つて、持つて来た大きな紅玉を、机の上のお母さんの指ぬきの置いてある側に置きました。それから燕はベットの周りを靜かに飛んで、男の子の額を羽で扇いでやりました。するゝ男の子は「あー涼しい。僕屹度快くなつてゐるよ」こ申しました。そして氣持好さ／＼に眠りました。

それから燕は幸福の王子様の所へ歸つて、自分のしたことを話しました。そしてかう申しました「變ですな。ただけさこんな寒いのに、私は大變温くなりました」

「それはお前が良いことをしたからなんだよ」王子様は仰有いました。それから小さい燕は考へだしました。そして眠つてしまひました。燕は物を考へるゝ屹度眠くなるのでした。

夜が明けると燕は河へ下りて行つて、水を浴びました。

橋を渡つてゐた鳥類學の學者がそれを見附けて、「これは珍らしいこゝがあるものだ。冬に燕がゐるなんて！」こ申し

ました。そしてその學者は長いそれについての意見を地方新聞に投稿しました。するゝそれが皆の話題になりましたが、その記事はあんまり六ヶしい言葉が一杯ありましたので、普通の人には書いてあるこゝが解りませんでした。

「今夜は私、エチプトへ參ります」燕はかう云つて、喜んでゐました。燕はもうこの市街の名所は皆見物してしまひました。教會の塔の上にも長いこゝまつたのでした。何處へ行つても雀達が囁り合つて、「珍らしい人だな」こ申しました。それが燕には大變面白いのでした。

お月様が上つた時に、燕は幸福の王子様の所へ戻つて行きました。そして元氣な聲で「エチプトの方へ何かお言附はございませんか。これでお暇致しますが」こ申しました。

するゝ王子様はまた「燕や燕、小さい燕、もう一晩だけ僕の所に泊つてくれないか」こ仰有いました。

小犬のお話

氏 原 鏡

或る山の中の家に太郎さん、花子さん、云ふ二人の子供が在りました。日曜日の朝太郎さんはおかあさまから郵便を出して来て、言ひ付けられましたので、橋を渡つて行かうございましたら、其橋のまん中に生れてまだ間のない小さいな小犬が寒むさうにブルブルふるえて弱つて居ました。

太郎さんはこれは可哀想だ寒いからだろうと思つて其小犬を暖めてやつたら、考へまして、幸ひけふは日曜日で和服を着て居るので都合がよく、すぐに自分の懐に入れて、あたまめてやりました。夫れから郵便を出して歸りましたが、小犬の事は誰にも言はずに居ました。太郎さんは時々自分の懐の中をのぞいて小犬の様子を見ました。ところが、小犬は體が暖たかになつたせいか、だんだん元氣が出て来て、そろそろ動きはじめましたので、太郎さんは大層喜びました。おひる頃になつておかあさまが太郎さんの懐がふくれて居

るのに氣付いて、太郎さんお前の懐がふくれて居るがさうしたのか、尋ねましたので、太郎さんは今朝郵便入れに行つて橋の上にもふるえて居た小犬を拾つて来て、あたまめてやつて居る事を話しました。おかあ様は大層おほめになつて、それは大變よい事をしたと、花子さんも呼んで来て共に喜んで其小犬をそれから可愛がつて飼ひました。

此犬がだんだん大きくなつて、ひるも夜もあやしい者が來ます。ワンワンとほえて家の人にしらせます。夫れから感心な事は毎朝太郎さん、花子さんの學校に行く時はキツト門口で待つて居て、山道のおぶなくない處迄送り、又學校から歸る時も毎日山道のおぶなくない處で待つて居てお供して歸ります。斯うして此犬のボチは太郎さん、花子さんの爲めになりますので、おこころ様おかあ様も喜んで太郎さん、花子さんの學校の歸る時間が遅くなつても安心し、又太郎さん

も花子さんも大層此犬を頼りにして居ります。此太郎さん
と花子さんが毎日通つて行く山道は随分高い處迄昇つて
下る道で、其道はさては二人並んでは行けぬ一人づゝ行か
ねばならぬ道で、雨ふりの時又雨ふり後の道は山土ですべ
り易く少しもよそみなぎは出来ません。夫れから此長い山
道には電燈なきがないので學校の歸りの遅くなつた時なき
は暗くて困ります。此の様な道を毎日通つて學校へ行かな
ければならん太郎さんや花子さんの事を氣の毒に思つて上
げて下さいませ、太郎さんや花子さんは此ボチのお蔭で毎
日遠い學校へ心丈夫に通つて居ります。或時太郎さんと花
子さんが學校から歸り道の山にかゝる處にいつも待つて居
るボチが居ませんので、さうした事かこ心配してそこいら
をさがして見ましたが分りませんので、今日は遊びに来ず
家に居るものと思ひ、家に歸つて見ますにボチは居ません
ので、皆が大變心配してモー歸るかモー歸るかと思つて待
つて居りましたが、一向ボチは歸つて来ませんので、皆は
涙ぐんで居りました。夫れから日曜日を二つ過ぎた月曜日
に太郎さんと花子さんが學校から歸り道のいつもボチの待

つて居る所迄来ます。ボチは元氣のない體で太郎さんと
花子さんを見て懐かしげに寄つて来ましたので、二人とも
にアーボチだ。大層喜んで飛び付いて抱き付きました。そ
して太郎さんはボチお前は今迄何處へ行つて居たのか皆が
心配したと言ひましたがボチは口がきけませんので、其弱
つた元氣のない體を嬉しさうに尾をふつて答へて居りま
す。そこで太郎さんがボチの首に紙のたたんだ物に紐を付
けて結んで有るのを見出して、花子さんと開いて見ます
と、其紙に此可愛らしい犬がほしくなつていやがるのを無
理に連れて歸り紐でしばつていろいろ御馳走をやりまし
たが少しもたべずだんだんやせて元氣がなくなるので、死
にでもしたら大變だと思ひ紐をはなしてにがします。書
いてありましたのでボチの居なくなつた事が分りました。
夫れから家に連れて歸りおさう様やおかあ様なきが大喜び
で御座いました。夫れから前の通り毎日太郎さんや花子さ
んの學校の送り迎へをして居りました。

東京女子高等師範學校
教授・附屬幼稚園主事

倉橋惣三先生新著

四六判三百餘頁
挿繪澤山の實際風景
定價金二圓五十錢

幼稚園保育法と眞諦

保育法の最良權威者

東京女高師附屬幼稚園主事にて又文部省社會教育官を兼ねられ而も人間味豊かな人格者として天下定評の士である。著者は幼兒教育並に家庭教育の第一人者として曩に長くも此點に御關心深き 兩陛下の御前講演の榮に浴され我國保育界第一の耆宿・且權威である。現に本邦最古最良の

現代保育法原論完成

倉橋先生は稀に見る純眞の教育者にて著書少く系統ある著書は本書のみ。本書は懇願數年初めて完成されたる新著にて、現代に於ける最も完備系統ある保育原論である。

世界一の設備皆掲載

小石川に新建築の東京女高師附屬幼稚園の施設經營は世界一なりと稱さる。本書には其大部分を居ながらにして見得る様に部分的全體の並に保育實際の多數の寫眞を掲載す

【目次】

- 第一篇 幼稚園保育法の眞諦
 - 一 教育に於る目的と對象
 - 二 幼兒生活と幼稚園生活形態
 - 三 生活へ教育を
 - 四 幼兒生活の自己充實
 - 五 幼兒生活の誘導
 - 六 幼兒生活の指導
 - 七 幼兒生活の教導
 - 八 幼兒生活の陶冶
 - 九 幼兒の個性
- 第二篇 幼稚園に於る保母の位置
 - 一 無案保育
 - 二 保育案の意義
 - 三 誘導の保育案
 - 四 保育案の採りどころ
 - 五 保育案と保育項目
 - 六 保育案立案度及徹底度
 - 七 保育案と自由遊び
 - 八 保育案の創造性
 - 九 保母の生活性
 - 十 保母の生活性
 - 十一 保育過種の實際
 - 十二 保育過種の實際
 - 十三 保育過種の實際
 - 十四 保育過種の實際
 - 十五 保育過種の實際
 - 十六 保育過種の實際
 - 十七 保育過種の實際
 - 十八 保育過種の實際
 - 十九 保育過種の實際
 - 二十 保育過種の實際
- 第三篇 幼稚園の朝・二自由遊
 - 一 幼稚園の朝・二自由遊
 - 二 幼稚園の朝・二自由遊
 - 三 幼稚園の朝・二自由遊
 - 四 幼稚園の朝・二自由遊
 - 五 幼稚園の朝・二自由遊
 - 六 幼稚園の朝・二自由遊
 - 七 幼稚園の朝・二自由遊
 - 八 幼稚園の朝・二自由遊
 - 九 幼稚園の朝・二自由遊
 - 十 幼稚園の朝・二自由遊
 - 十一 幼稚園の朝・二自由遊
 - 十二 幼稚園の朝・二自由遊
 - 十三 幼稚園の朝・二自由遊
 - 十四 幼稚園の朝・二自由遊
 - 十五 幼稚園の朝・二自由遊
 - 十六 幼稚園の朝・二自由遊
 - 十七 幼稚園の朝・二自由遊
 - 十八 幼稚園の朝・二自由遊
 - 十九 幼稚園の朝・二自由遊
 - 二十 幼稚園の朝・二自由遊

訂増版六十 幼稚園の理論及實際

奈良女高師教授
兼附屬幼稚園主事

森川正雄先生著(菊判) 定價・二圓
送料・六

版六 兼附屬幼稚園主事 用保 育 學

- 幼稚園の理論及び實際を詳説された本邦唯一の最良書である。
- 内外の實際、古今の理論等悉く收められて遺憾とする所なし。
- 保母檢定受験者の唯一最良の参考書・幼稚園書の王である。
- 保母檢定試験規則による教育・兒童心理・教授法・管理法の主要を全部網羅せる保母必須の最良書である。
- 教育は本書を保育は幼稚園の理論及實際に依ると共に保母須要の二大科目の良参考書として最も適切なるものである。

東大 京阪 東洋圖書株式會社發行

東京市神田區神保町一丁目番地
大阪市南區安内寺町二丁目番地
振替東京一〇三〇七番
振替大阪九三五六番

東京女高師教授 倉橋惣三先生 同校 保母新庄よここ先生 共著
 定價三圓五十錢

本日幼稚園史

特色
 一、二十年苦心の結晶漸く完成す 大震災にて一時頓坐したるも再計畫の上蒐集考察研究完成す。
 二、草稿千餘枚挿繪數百整理成る 倉橋先生畢生の努力と新庄先生懸命の助力にて此の名著成る。
 三、日本幼稚園史として比類なき 歴代皇后陛下行啓の榮を得し我が國幼稚園本山の記念作品。

目次

<p>第一編 沿革及施設史</p> <p>第一章 幼稚園開設前期 第二節 明治文化の建設 第二節 幼稚園開設の機運 一、學制頒布 二、女子師範學校の設立 三、幼児教育の先覺者</p> <p>第二章 幼稚園開設 第一節 幼稚園遊戯場 第二節 女子師範學校附屬幼稚園の創設</p>	<p>第二章 設立後の經過</p> <p>第一節 開園及開業式—皇后皇太后兩陛下下行啓— 第二節 創立後の規則及學年休業日 第三節 建物庭園及職員 第四節 保育科目及保育用具 第五節 幼稚園參觀記及追憶 第六節 女子師範附屬幼稚園(二)</p>	<p>第三章 公令、功績者、保育文獻</p> <p>第一章 功績者 一、中村正直氏 二、關信三氏 三、松野くらら氏 四、豐田英雄氏 五、小西信八氏</p> <p>第二章 保育文獻 第一節 著書 第二節 手記</p>
<p>第四編 其の後の普及發達</p> <p>第一章 一日の開誘(保育) 第二章 保育科目の恩物 第三章 保育科目の改正 第四章 博物理解 第五章 唱歌遊戯</p>	<p>第五編 公令、功績者、保育文獻</p> <p>第一章 功績者 一、中村正直氏 二、關信三氏 三、松野くらら氏 四、豐田英雄氏 五、小西信八氏</p> <p>第二章 保育文獻 第一節 著書 第二節 手記</p>	<p>第六編 公令、功績者、保育文獻</p> <p>第一章 功績者 一、中村正直氏 二、關信三氏 三、松野くらら氏 四、豐田英雄氏 五、小西信八氏</p> <p>第二章 保育文獻 第一節 著書 第二節 手記</p>

五版 幼稚園の經營

奈良女高師教授 兼附屬幼稚園主事 森川正雄先生著
 (四六)定價二〇〇 送料六六

□ 掛け方目目保育要目・標準施設・時間配當該規定 託兒所經營の重要問題の凡てを解説する。
 □ 更に經營經驗・幼兒の眞生活・保育の眞實・家庭と連絡の眞問題の雜問題等にて付添説し盡す。

六版 託兒所育兒法

奈良女高師教授 兼附屬幼稚園主事 森川正雄先生著
 (菊判)定價二〇〇 送料〇一四

□ 育兒法は保母資格試驗の必須科目である。本書はその唯一の參考書にして保母養成所教科書。
 □ 附録(一)工場法(二)健康保險法(三)種痘法(四)産前産後の訓令、五六七其の他諸規定諸表を添ふ。

東京 東大 京阪 社會資合式株書圖洋東 發兌

東京市神田區神保町一丁目 振替東京一〇三番
 大阪市南區堂安寺町一丁目 八番 振替大阪九五五番

讀者より

ある保母さん

の日記から

M、K

こゝに記すは一人の友から送られた日記の抄録であります。僅かに一枚の葉書が縁となつて結ばれたこの友と私の親交は數回往復の文通の中に加速度的に深められ、遂に一冊のノートが私の机上に送られました。その中には本年四月一日から七月十九日までの保育日記が一日も休まず細かに書き記されてありました。吸ひつけられるやうに讀み行く中に、私はこの友の現在の心境や我等が天職に對する希望と責

任、幼児に對する感謝とお詫び等が私と同じ心の動きに於てひびき合ふ事を痛切に實感しました。そしてこの心の動きは單に我々二人だけではなく、本誌の讀者の中にもこれと同じ心の動きを日々感じられつゝある方々がずいぶん多いのじやないかと思つたのです。殊にその根源となつて一貫してゐる一つの精神こそは、それこそ保母の生命ともいふべき最も大切なものであると信じてゐますので、さうかお互にこの精神をあたゝめ育てゝ行きたいとの念願から、この内容だけを(名を書かずに)本誌に發表することにしたのであります。

さにかく平生から私の云ひたいと思つてゐる事や、心にあつても充分に言葉に云ひ表はせない思ひがこの日記の中に書き記されてゐるのは、實に決心に耐えぬのであります。尙本文の筆者は、去年も今年も年少組を受持つてゐられる若き保母さんである事を申し添

へておきます。

新學期からは

私がこの幼稚園に来て滿一ケ年は過ぎた。今迄を思ひ返して見れば、始めのあの意氣も何時の間にか消え失せて、其の場逃れのお恥しい事はかりして來た。「その日暮し」……その日をさうにか過せばよいといふ様な氣持であつた。

それでも一ケ年を経た私には、大體ではあるが此の幼稚園の姿といふものを見る事が出來た。「今日迄は何もわからなかつたから、手出しせずに唯見學してゐたんだもの」を強ひて自分で理窟を付けて云ひわけをするならば、では新學期からは!! これからは自分の力のあらん限り手足を伸して活動すべき筈、私の理想、人こそ知らぬ私の心の奥には高き理想が秘められてゐる。一ケ年の見學(?)を経た上はこれから新しい道を進めて行く時だ。一分一

秒にも常に自己の最善を盡して行け！
進め！ さうして永久の幸福を得る事
こそ私の一生の希ひである。其の日一

日の努力を惜しむ勿れ。一日力一ぱいの生活の後は安らかな休息がある。張りつめた一日を送つた後就寝せんとする心持はされだけ幸福に満される事であらう。一日の計は朝にあり。その日その日一ぱいの生活をする爲には、先づそのスタートに於て充分の計畫と希望と決心が無くてはならぬ。神性宿る自己を自覺して、自己の行く手を開拓せよ！

今學期爲さねばならない仕事

讀書 人の教育、エミール、心理學
ピアノの畫の勉強 字をきれいに書
く事 英語書取

四月十一日 外遊指導 砂場

次第々々に我が手に入り行く子供の心、堅く閉された心の扉は目に見えて徐々に開かれて行くのを感じるのは、

愉快でくたまらぬ。Hも今日はよほさ女中と離れてゐたし、砂場遊びの時は愉快に微笑を洩しながら杓子を取つてゐたのを見て、私は思はず微笑を洩したのであつた。今まで外で遊んだ事の無いだけに、一人では何さなく怖氣が出るのであらう。

お砂遊は皆大喜びであつた。お山を作る者、お饅頭を作る者、お煎餅を作る者等、倦む事も知らず次から次へ遊びを續けた。

お山を造らしむる事、お饅頭を造る方法等を面白く教へたのを皆興味深く聞いてゐたが、喜んで杓子と竹筒を保持つてよく遊んだ。

Kは自分で兎に餌をやる事が出来なかつた。「お砂遊びようせん」云つてしない。Tも相手にならなかつたら何時までもじつとしてゐるさいつた質の子。O、S、T、M等の接觸が薄い様に思はれる。

明日も晴天ならば、始まる前にもつ

三年長組の子供と交つて遊んでもらふ様にしたらよいと思ふ。

遊具の使用方を教へずに子供自身から遊び方を見付け出す方が良いか、一通り使用方を教へて遊具に對する豫備知識を備へておくべきか、未だ疑問。

四月十二日 外遊指導 江り臺

天氣具合もあつたが、昨日に比べて今日は蜂の巣をつゝいた様な騒ぎであつた。

M、F、K等が夫々鋭鋒を理はして來た。おさなしく「汽車く」をつないでゐなくなつた。手を離して歩くのが面白くなつたり、自分勝手に飛び出すのが面白くなつたりして騒ぐ様になつた。

あの自由・自發活動と指導・一齊、ここに起る矛盾の悩みはまだ取れない。自發をそのまゝに伸しておけば會集の折の行儀は悪いでせう。始めから手を

横に垂れ直立の姿勢をする習慣をつけ
て置けば會集の時のお行儀は上々にな
るかも知れない。何れの方法を取らう
か。

何れを選ぶにも、要は子供に何等苦
痛を感じなくばそれでよい。お行儀良
くしてそれで苦痛を感じなくば、よい
のだが、そこに保姆の技量があるであ
らう。

四月十三日

腹案通り「汽車く」を男女別にしや
うさしてゐた。丁度その時使丁が兎に
餌をやりに来た。兎が餌を食べるのが
面白くて此方が一生懸命にカン／＼に
なつて汽車の説明をしてゐるのに、子
供の首だけは兎の方を熱心に見つめて
ゐた。折角昨晩から考へて意氣込んで
來た腹案だつたのに、これですつかり
壞されて兎を見る事にした。

決して保育は或る型に捉はれたもの
ではならない。自然な生活さして取扱

つて行かなくてはならぬ。その點から
云つて、會集をしたりするのは？會集
ある爲にされだけ現在そのものゝ生活
を犠牲にしなくてはならないでせう。
出来るだけ此の型の穀をぬぎ、新鮮味
の富んだ生々した保育をしたいもの
だ。

四月二十日

感謝する心

一日一日を感謝でみたされた敬虔な
心持で生活してゐる人は何ミなく尊く
感ぜられる。感謝する事、満足する事
を知らない人は不幸である。終日心に
或る不足不満を抱いてゐる心はまここ
に哀れむべき事だ。……
もつこ新鮮な謙讓な氣持で、子供の
世界に入り直して行きたい。

四月二十一日

理詰めの難かしい書物も讀む事は必
要だが、今の私にはもつこく情味に

富んだ文學的な本を要求してゐる。
「文は人なり」その人の文はその人の人
格を最も正直に現はしてゐる。「何もし
ないで本ばかり讀んでゐるからそんな
風にカチ／＼になるのだ」母に云は
れてつく／＼自分の缺點を省る。

五月十日

私の心に緩みのある證據には、子供
にむづかる子が出來た事、泣く子が多
くなつた事、缺席者が出來た事等であ
る。……
締る時はキチン締る様な習慣も一
日の中には必要な事であらう。殊にお
歸りには氣を落付かせて風も整へて、
靜かに別れの挨拶をして別れるやうに
したい。

五月十二日

「幼稚園では子供を愉快に楽しく興
味深く遊ばしめる事、これが最も根本
の目的ではないだらうか。

「時には子供の時から苦痛も味はしめ、之に耐える訓練も必要だ」こういう心理窟もあるだらうか。しかし、この理窟が眞理であるならば（現在の私は之を信じてゐない）私の今の頭を始めから造り直して行かねばならないであらう。

顔

人さ向ふこの顔、感情の現はれであり、心の門戸さも云はれる此の顔、而も何等隠しだてする事無くむき出しの儘何處へでもひき下げて行く此の顔、自分の顔は一生見る事は出来なくとも、せめて鏡が映してくれる右左の變つた顔を眺めて、時々は自分の心を反省してみなくてはならないのであらう。

今朝登園の途、一女學生に遇つた。綺麗な顔だなと思ひ一寸目を止めた瞬間、其の顔は愛くるしい目をバチつかせつゝ笑みこぼれる様にして私にお辭儀をしてくれた。私には何處か見覚え

があつたけれどもまだ嘗て面さ向つて遇つた事もなかつたのだ。唯この間の〇〇の會で舞を舞つた子の顔がさうもよく似てゐるなと思つた位であつた。それだのにその子はさも懐かし氣に私の顔を見上げつゝ首をかしげてお辭儀をしてくれた。顔立ちが整つてゐる美人であつたさういふよりも、何よりもあの人懐つこい顔の表情が最も心に焼き付けられたのである。まだ一度も會つて話をした事もない私にさも親しさうに見えるからに幸福さうな笑を投げかけてくれた子に對して、私は嬉しさ感謝の念で一ぱいになつてゐる。明日も會ふたらさ念じてゐるのだ。

私は門をくぐる際にももう一度振り返つて見たら、その方も帽子のツバに左手を優しくかけながら又會釋を送り返してくれた。私はひきく其の方の姿に心を打たれつゝ部屋に入るさいきなり鏡の前に立ちほだかつた。おゝ何さこわばつた難かしさうな顔であらう。今

の天使の様な乙女の顔に比べてつくづく恥かしく思ふ。よくも毎日〇〇から〇〇までの道を平氣でぶら下げて來られたものだ。私は笑つて見た。が然しそれは活力なき顔面筋肉の弛みに過ぎなかつた。

今私が斷言した様に、顔は心のその儘の現はれであるとするならば、これは本當に恐ろしい事である。

この顔で子供の前に出られたものではない。

毎日笑つて暮せる人は幸福である。

怒りつばい人はその人自身の心持を荒立たせるばかりでなく、周囲の人の心をも暗くするものである。それは罪惡である。少くも子供の前では決して怒つた顔を見せてはならぬ。子供達と共に、幸福な笑顔に満ちた天地を造て行きたい。

叱らない事が假りに間違つた教育法ださ云はれたにせよ、私は子供に叱つた後の心持が堪えられないのだ。叱り

たくない。叱るかはりに尙それよりも
大きい効果を擧げる保育法を見出して
行かなくてはならぬ。

「手を横、氣を付け、足を揃へて」こ
させる事は、何が故こいふ確たる教育
効果があるのでも、子供が可愛さうな
氣がしてたまらない。「アーシンド」こ
云ふ子供の歎息も聞いた。…(中略)
私は子供の本當の世界こいふものを
全く本當な所を知らないでゐるのかし
ら。

五月十七日

毎日毎日この頃の暮し方はあまりに
空漠過ぎはしないか。朝六時に家を出
て子供の歸る迄の、あの一ぱいの生活
はそれでいゝとして、それから後の五
時迄が多く無駄な時間を費し勝ちであ
る。出席簿付け・保育案・製作準備唯そ
れつぎりの仕事なのに、毎日歸宅が五
時になるのががゆくてならないので
ある。けれども頭こ手の働きが鈍くて

さうにもならずゐる。もつこ能率的
に働いて、強く生きて行きたい。

五月二十三日

保育の仕方は(根本原則は同じであ
つても)その表面に示された技術的な
事は保母一人々々の性格により各々が
有する人生觀によつて皆異なるものであ
る。然しそれは構はないと思ふ。必要
なのは常に變りない保母の誠實なので
ある。保育の技巧的な事は一方保母の
經驗に俟たねばならないが、眞實な心
さへあれば一日一日の保育も難なく無
事に進めて行く事が出来るのだと思
ふ。

(中略)

同じく參觀するのなら、子供こ先生
こが共に自由遊びに没頭してゐるその
自然の姿の中に、保母の言語動作等を
眺めて批評し研究する方が、それだけ
有意義であるかわからない。

六月二十一日

子供への態度 親切こ嚴格
子供に接するに嚴なりこすれば、そ
こに自らの隔りを生じ接觸は薄らぐ。

愛は無くなる。

愛なき教育、それは教育ならず。

一口に云ふて、制御する事が嚴なり
こ云ふならば、人に何こ云はれ様こ嚴
たるべく出來得ず。

眞に嚴格こは何を意味するか。叱る
事必ずしも嚴にあらず。深き意味何處
かに存する如く思はる。されば具體的
に云ひて、さうする事が嚴にして、又
其の反對が緩なるか?腹に入るまで聞
き開き度き希ひ切なり。

六月二十二日

(前略)

再び雜然こした室内を見渡す。これ
が…この現實の姿が私の生活の一部
分こすれば…私こ共に居て此の室で
生活する子供達は私から何を受けて歸

たか。……

靜かにすべき時は靜かにし、仕事を
する時は實を入れてそれに歿頭するこ
いふ風に缺けてゐる。靜かにしてゐた
からきて、活動は充分に出来てゐるの
である。否靜かにして居ればこそ、内
部活動は充分に出来て來るのである。
さもすれば外形に囚はれ輕卒に流れる
自分の行爲を戒めると共に、S、M、
F、K等の輕卒な亂暴な態度を矯め直
さねばならぬ。

今日のチューリップの塗り畫の不出
來は決して子供を攻めるものではな
い。私の性格の缺陷を保育技量の不足
の現はれである。より良き子供達をす
べく、先づ私はより良き保姆としての
生活に入らねばならぬ。

落付き、靜けさ、整理、整頓の出来
ない私は、神の御力を信じ、信仰の天
地により良き歩みの道を求めなければ
ならぬ。

M S 兒

元氣旺盛な子であるが、元氣な子とし
て一ぱいに伸してやりたい私の希ひで
あつた。私はあの子を良い子だ、愛し
てゐる。決して質の悪い子、手に負へ
ぬ子だなんて思つた事が無かつた。悪
戯はしてもそれは許してもいい。悪戯
をして今までは減多に叱らずに居たけ
れど、やはりそれは他人から見れば「親
の慾目」だつたのか？

今日二人の先生からMさんの亂暴で
仕様のない子だといふ事を聞いてすつ
かり憂鬱になつてしまつた。子供に對
する觀察が缺けてゐるので、本當に悪
かつた事をも見逃して來てゐたのかし
ら？「コラ〜」とよく怒る子だがチヨ
コチヨコに人に手を出して行く子だ
が、しかし私はそれ程きつく咎めなかつ
たが、悪かつたかしら？

子供の本當の心持を知つてやる事
は、大切な事だが難かしい事だ。彼等
も小さいながらも一個の人格を持つて
ゐる。大人だからと云つて、先生だけ

らさいつて、私達は彼等の人格を傷け
る様な事をしては斷じていけないの
で、知らず〜の中になさうした事は行
はれてゐる事はないか、常に案じて
ゐるのである。

空つほな机を眺めつゝ後に納つてゐ
る主なき小さな椅子を眺めてゐるこ、
何故さもなく目頭が熱くなつて來た。
椅子にくゝり付けられた、座蒲團はそ
の子の顔になつて現はれて來て、子供
への愛情がひし〜と身に迫つて來る
……。

子供達よ、明日も又ね。

兒童問題研究

定價20セン
送料1セン

三月號

申込次第研究会規約・研究コー
ス雜誌見本送呈(郵税2セン要)

この雑誌は嚴正なる科學的態度を以て兒童とその生活を綜合的に研究する目的から生れたものであつて、保姆、教師及び両親に取つて、これ程豊富な糧となる讀物は、過去にも現在にも他に出された事はありません。殊に新春以來の本會及本誌の發展は目ざましいものです。試みに是非一冊を手にしてみて下さい

附録・「子供新聞」(第七號)

誌上兒童相談……………擔當 淡路圓治郎

「教育論叢」批判……………

ナチスの教育……………下田 元

世界新學校紹介(三)……………水原泉二

居脚本捨てられる赤ん坊……………野田 豊

學生として大學生活を顧る……………牛島 吉太

教育科大學生活を顧る……………東京 滿江 久

報告指導の一年生……………東京 滿江 久

児童の生活記録の方法……………兒童學研究部

少年俱樂部批判……………兒童讀物研究部

託兒所の芝居……………保育研究部

列強少年團の現状(二)……………文部省社會教育
局青年教育課長 小尾 範 治

校外教育學概論(三)……………編輯部

兒童學入門(八)……………文學士 山 脇 敬 次

特 輯

兒童就職問題文獻目錄……………

勞働少年の座談會……………

我が校の職業指導……………全國小學校

全國子供姿態(二)……………

兒童問題の綜合的研究法に就て……………幹事會

報介紹信
「世界」の
「子供」の
「良書」の
「地」方

發行所

東京本所横川橋四ノ七(帝大セツルメント内)
振替 東京 七 七 一 七 六 番

兒童問題研究會

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

日本幼稚園協會規則

- 會長 東京女子高等師範學校長 吉岡 郷甫
 - 主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋 惣三
 - 附屬幼稚園主事
- 第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス
- 第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ離出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ
- 第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ
- 第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得
- 第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ

- 一、雜誌發行(毎月一回)
 - 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
 - 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
 - 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認ムタル事件
- 會ノ開催
- 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
- 會長 一名 會務ヲ總理ス
 - 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
 - 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
 - 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス
- 第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
- 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
- 第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ
- 第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

定價

一ヶ月分	金參拾五錢
半年分	金貳圓拾錢
一年分	金四圓貳拾錢

拾貳冊送金貳圓拾錢

拾貳冊送金四圓貳拾錢

廣告

特等面一頁	貳圓
一等面一頁	壹圓
二等面一頁	貳角
三等面一頁	壹角

金貳拾五圓御斷

神田區駿河臺ノ三品田廣告社に御申込下さい

(外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)

昭和九年三月十二日印刷納本

昭和九年三月十五日發行

幼兒の教育 第三十四卷 第三號

不許複製 禁止轉載

編輯者 倉橋 惣三

發行所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地

印刷者 柴山 則常

印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地

杏林 舎

發行所

東京市小石川區大塚町三十五

東京女子高等師範學校附屬幼稚園內

日本幼稚園協會

振替口座東京一七二六六番

注文規定

- 一、本誌御注文の方は凡て前金(郵共)で願ひます。(郵券代用の場合には振替貯金で)
- 一、御送金の場合には振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
- 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
- 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
- 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
- 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

大好评

久留島武彦先生新著

▲豪華版中型三五〇頁 ▲定價二圓五十錢
▲箱入色挿繪約二十葉 ▲送料十六錢

童話大王久留島武彦先生新著

久留島先生の十八番集

（壇上に立つては正に日本一の定評あり現代の童話王として天下周知の我が久留島先生の數千のお話の中の名話傑作を選択した十八番集）

童話壇上三十年の記念

（先生自ら筆を採り悉く壇上の實話形式を以て詳記されし記念名作集）

超豪華版お話本の王様

（上述の意味に於て内容は天下一品而も外形超豪華版中型にて色刷色繪二十葉優美卓絶學校家庭用高級兒童讀物童話兒童劇實演の絶好讀物）

東京女高師教授
文學博士

下田次郎先生著

【第一卷】

價二〇・一〇〇 送

現代實話集

東京女高師教授
文學博士

下田次郎先生著

【第二卷】 價二〇・一〇〇 送

現代實話集

○此實話集は東京女高師本科へ入學した生徒に毎年其の生涯に於て最も感動した體験實話を自筆させ更に整理し博士一流の麗筆で書き改めた實話集。
○現代我國の女子最高學府へ合格入學した優秀純真な處女の實感である爲記載事實そのものが既に詩的であり劇的であります。
○そして多數人が長年月に渉る感語であるから多趣多様子繁萬紅誰人にも興多く魅力あり迫力あるものであります。其上下田博士の名文は天下の定評で一度卷を開けば一氣に讀み下されば止められぬ程で家庭でも學校でも利用の道が多いものであります。
○曾我酒家五郎君はその中の一篇を借りて五郎劇に上演したと申込まれました。
○司法省は特に二百冊を買上げて全國の少年囚に分ちて之が愛讀を慫慂されました。童話王久留島武彦先生は最近實話にも食傷する程だといはれただけは別だ。僕も泣かされて思はず讀破した」と賞められた。

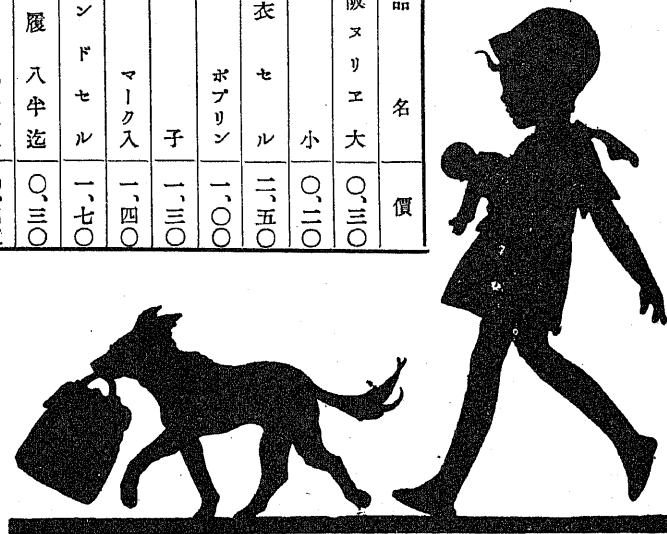
東大 京阪 東洋圖書株式會社發行

東京市神田區神保町一丁目六七八番地
大阪市南區安内寺堂一丁目二八七番地
東京市東區東橋本一丁目三〇七番地
大阪市東區東船場三丁目九番地

御園兒の用品は

精選吟味した製品が總て揃へ整へて御座います。個々にお探み遊ばすより弊社へ御下命が最も割安で御負擔も輕う御座います。

品名	價	品名	價	品名	價
お道具箱	〇、二五	糊入	〇、〇五	大阪ヌリエ大	〇、三〇
クレオン(太)	〇、二〇	ホール切	〇、一三	小	〇、二〇
同	〇、二五	ハンカチ布	〇、一三	上衣	二、五〇
同	〇、〇三	鉛筆	〇、〇二	ポプリン	一、〇〇
同(中太)	〇、一六	出席カード	〇、一〇	帽子	一、三〇
同	〇、二〇	マール・ハブラシ	〇、一五	同	一、四〇
はさみ	〇、一五	ポスター名入百枚	七、〇〇	ランドセル	一、七〇
色鉛筆(トンボ印)	〇、二五	自由畫帖上	四、〇〇	上履	〇、三〇
刷毛	〇、〇五	普及品小	〇、一七	同	〇、四五
粘土へら	〇、〇五	環付自由畫帖	〇、一八	フェルト製靴	〇、五五
糊へら	〇、〇一	スクラップ・ブック中	〇、一二	上靴	〇、六〇
繪定規	〇、〇五	同	〇、〇八	同	〇、六〇
織針	〇、〇八	ヌリエ No.1 No.2	〇、二五	草履袋	〇、一八



株式會社ルベール館

本店 東京 神田 今川小路 九話電 (33) 番七二八三
 支店 大阪 東區 後備町 二ノ六 話電 番八三一

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
 (毎月一回十五日發行)

昭和九年三月十五日印刷納本
 昭和九年三月十五日發行

定價三拾五錢